佐久市文化財

保護報

平成24年度（2012）

22

佐久市文化財

年報

平成 24 年度（2012）

22

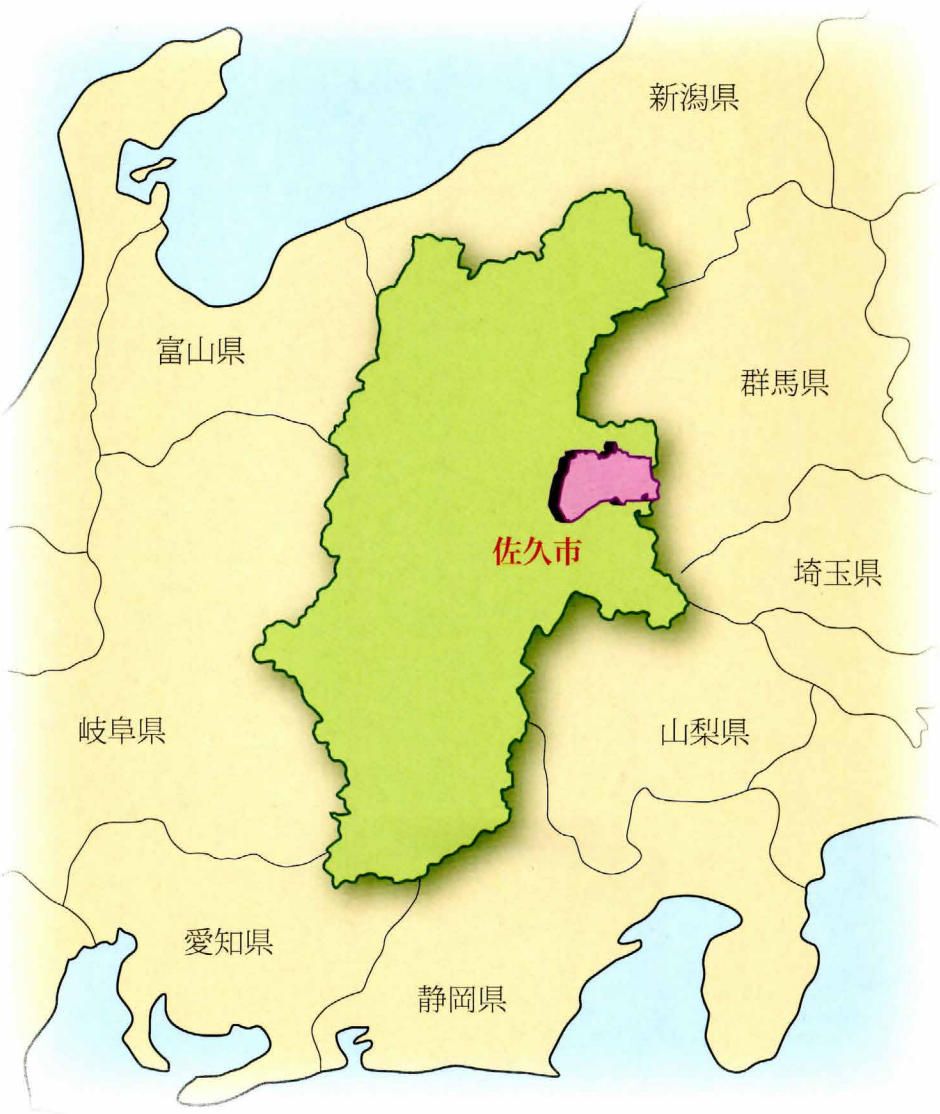
例　　言

1　本書は佐久市教育委員会が、平成２４年度に実施した普及啓発活動と埋蔵文化財調査の概要報告書である。

2　本書の編集は小林が行い、埋蔵文化財調査の概要は、各調査担当が執筆した。

3　Ⅰ・Ⅱ章については平成２５年度佐久市教育要覧の記載に準拠し、一部加筆をした。

4　本書に使用した1:50,000の地図は、国土地理院長の承認を得て、佐久市が複製したものである。



佐久市の位置

目　次

市指定有形文化財　万治の石造大日如来

例　言
目　次
機構図
体　制
口　絵

市指定有形文化財　市川家の石造大日如来

Ⅰ　指定文化財保護事業

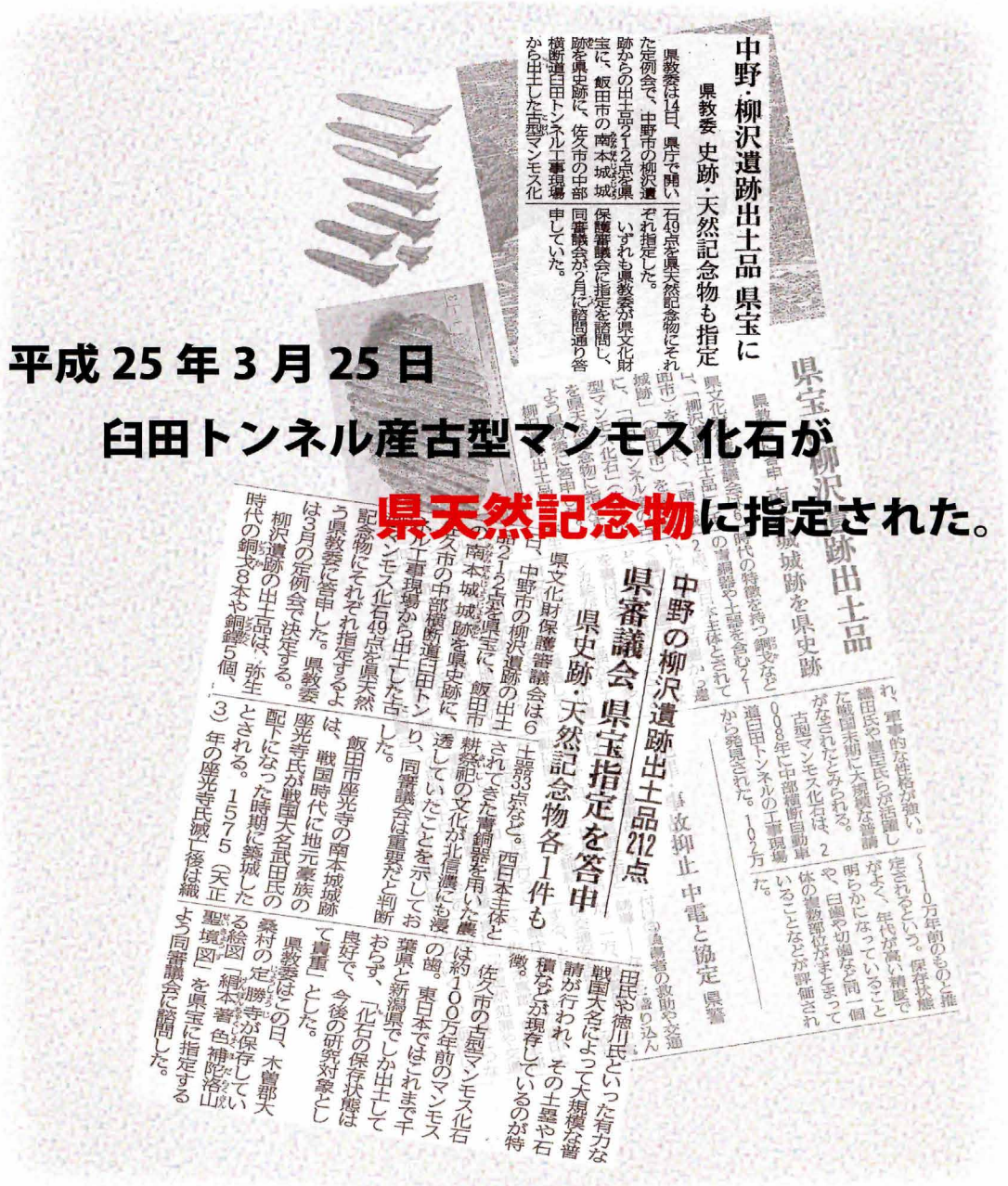
1　国・県・市指定文化財 …… 1
2　公開・普及 …… 4
(1) 国史跡・重要文化財　旧中込学校 …… 4
資料館 …… 4
蒸気機関車・佐久鉄道ガソリンカー …… 4
(2) 島崎藤村旧宅 …… 5
(3) 国史跡　龍岡城跡 …… 5
(4) 資料の利用と貸出 …… 5
3　望月町誌編纂事業 …… 5

Ⅱ　埋蔵文化財事業

1　保護・保存 …… 7
(1) 記録保存 …… 7
1 概要 …… 7
2 発掘・整理調査 …… 7
3 整理調査 …… 7
4 試掘・立会調査 …… 8
5 出土遺物保存処理 …… 10
6 刊行図書 …… 10
2　公開・普及 …… 10
(1) 第33回　少年考古学教室 …… 10
(2) 講座 …… 10
(3) 展示 …… 10
1 文化財課事務所内展示室 …… 10
2 野沢会館ホール展示 …… 10
(4) 資料の利用と貸出 …… 11
3　調査概要 …… 12
1 南近津遺跡Ⅲ他 …… 12
2 大豆田遺跡Ⅳ …… 13
3 野馬窪遺跡Ⅵ …… 16
4 下金井遺跡 …… 18
5 宮の上遺跡Ⅴ …… 19

市指定天然記念物　小野山家のエドヒガン

6 道常遺跡 II …… 20
7 上大豆塚遺跡 …… 21
4 調査報告 …… 22
1 深堀遺跡 VII …… 22
5 資料紹介 …… 23
1 墨書土鍋 …… 23
2 協和　山の神古墳群　第 1 号墳の出土埴輪 …… 24
3 東城公人氏寄贈の長土呂字渋右エ門 1078 表採遺物 …… 29



平成 25 年 3 月 25 日

臼田トンネル産古型マンモス化石が

県天然記念物に指定された。

県宝 柳沢遺跡出土品

城跡を県史跡

中野・柳沢遺跡出土品 県宝に

県教委 史跡・天然記念物も指定

県教委は14日、県庁で開いた定例会で、中野市の柳沢遺跡からの出土品212点を県宝に、飯田市の南本城城跡を県史跡に、佐久市の中部横断道臼田トンネル工事現場から出土した古型マンモス化石49点を県天然記念物にそれぞれ指定した。

いずれも県教委が県文化財保護審議会に指定を諮問し、同審議会が2月に諮問通り答申していた。

中野の柳沢遺跡出土品212点

県審議会、県宝指定を答申

県史跡・天然記念物各1件も

県文化財保護審議会は6日、中野市の柳沢遺跡の出土品212点を県宝に、飯田市の南本城城跡を県史跡に、佐久市の中部横断道臼田トンネル工事現場から出土した古型マンモス化石49点を県天然記念物にそれぞれ指定するよう県教委に答申した。県教委は3月の定例会で決定する。

柳沢遺跡の出土品は、弥生時代の銅戈8本や銅鐸5個、土器33点など。西日本を中心とされてきた青銅器を用いた農耕祭祀の文化が北信濃にも浸透していたことを示しており、同審議会は重要だと判断した。

飯田市座光寺の南本城城跡は、戦国時代に地元豪族の座光寺氏が戦国大名武田氏の配下になった時期に築城したとされる。1575（天正3）年の座光寺氏滅亡後は織田氏や徳川氏といった有力な戦国大名によって大規模な普請が行われ、その土塁や石積などが現存しているのが特徴。

佐久市の古型マンモス化石は約100万年前のマンモスの歯。東日本ではこれまで千葉県と新潟県でしか出土しておらず、「化石の保存状態は良好で、今後の研究対象として貴重」とした。

県教委はこの日、木曽郡大桑村の定勝寺が保存している絵図「紺本著色補陀洛山聖境図」を県宝に指定するよう同審議会に諮問した。

中野の柳沢遺跡出土品212点

県審議会、県宝指定を答申

県史跡・天然記念物各1件も

県文化財保護審議会は6日、中野市の柳沢遺跡の出土品212点を県宝に、飯田市の南本城城跡を県史跡に、佐久市の中部横断道臼田トンネル工事現場から出土した古型マンモス化石49点を県天然記念物にそれぞれ指定するよう県教委に答申した。県教委は3月の定例会で決定する。

柳沢遺跡の出土品は、弥生時代の銅戈8本や銅鐸5個、

機　　構

- 教育委員会
  - 教　育　長
    - 学校教育部
      - 学校教育課
        - 庶務企画係
        - 学　務　係
      - 教育施設課
        - 学校施設管理係
        - 学校施設建築係
      - 学校給食課
        - 学校給食南部センター事業係
        - 学校給食北部センター事業係
        - 学校給食臼田センター事業係
        - 学校給食浅科センター事業係
        - 学校給食望月センター事業係
      - 小　学　校
        - 岩村田小学校　平根小学校
        - 中佐都小学校　高瀬小学校
        - 野沢小学校　岸野小学校
        - 泉小学校　中込小学校
        - 佐久城山小学校　東小学校
        - 田口小学校　青沼小学校
        - 切原小学校　臼田小学校
        - 浅科小学校　望月小学校
      - 中　学　校
        - 浅間中学校　野沢中学校
        - 中込中学校　東中学校
        - 臼田中学校　浅科中学校
        - 望月中学校
    - 社会教育部
      - 生涯学習課
        - 庶　務　係
        - 生涯学習係
        - 青 少 年 係
          - 生涯学習センター
          - コスモホール
          - 鎌倉彫記念館
          - 天体観測施設
          - 臼田文化センター
          - 交流文化館浅科
          - 五郎兵衛記念館
          - 天来記念館
          - 望月歴史民族資料館
          - 川村吾蔵記念館
      - 文化振興課
        - 文化振興係
        - 文化施設係
      - 体　育　課
        - 体育振興係
          - 佐久総合体育館
          - 臼田総合運動公園管理センター
        - 体育施設係
          - 浅科多目的屋内運動場
          - 望月総合体育館
      - 文 化 財 課
        - 文化財保護係
          - 望月町誌編纂室
          - 旧中込学校
        - 文化財調査係
      - 公　民　館
        - 公民館係
          - 浅間地区館
          - 野沢地区館
          - 中込地区館
          - 東地区館
          - 臼田地区館
          - 浅科地区館
          - 望月地区館
      - 中央図書館
        - 庶　務　係
          - 中込図書館
          - 臼田図書館
          - 浅科図書館
          - 望月図書館
          - サングリモ
      - 近代美術館
        - 庶　務　係

体　　制

●佐久市教育委員会

教　育　長	土屋盛夫
社会教育部長	伊藤明弘
文化財課長	吉澤隆
文化財保護係長	岡部政也
文化財保護係	井出幸恵（～6月）　比田井清美（7月～）　佐々木ふく江
文化財調査係長	三石宗一
文化財調査係	須藤隆司　小林眞寿　羽毛田卓也　冨沢一明　上原学　並木節子 神津一明　久保浩一郎　林幸彦（嘱託）

●佐久市文化財保護審議会

会　　長　丸山正俊
委　　員　中山洌　依田俊　鷹野裕由　荻原信子　佐々木久雄　鷲見和人
　　山崎哲人　春原邦江　佐々木誠一

任期：平成23年9月1日～平成25年8月31日

●資料館協議会

会　　長　小林濱治郎
委　　員　持田隆稔　小林恵次郎　碓氷弘　小宮山峰男　中山洌　中村八惠子
　　小平重子

任期：平成23年9月1日～平成25年8月31日

●国史跡龍岡城跡保存管理計画策定委員会

会　　長　宮本長二郎
副　会　長　五味盛重
委　　員　高埜利彦　河西克造　丸山正俊　細谷繁夫　上原茂雄　土屋勝二

委託期間：平成24年4月1日～平成24年10月31日

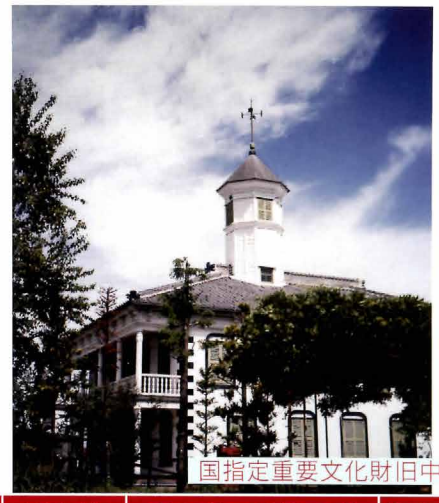
宮の前遺跡他・南近津遺跡Ⅲ他空中写真モザイク
（H22 ～ H24 調査分　近津区画整理等に伴う発掘調査）
H 440 号住居址の壁下の石列
（北信地方では散見されるが、東信地方では初見と思われる。東半分はH21 年度に調査済である。）
H 440 号住居址出土和同開珎

Ⅰ　指定文化財保護事業

1　国・県・市指定文化財

佐久市内には、指定文化財が 172 件(国指定 15 件、県指定 24 件、市指定 133 件)、国登録有形文化財が 3 件存在します。

以下にその内容を一覧表記します。



国指定重要文化財旧中込学校

●国指定文化財一覧表

国指定	文化財名	名　　称	員数	所在地	所有者又は継承者	指定年月日
1	重要文化財	旧中込学校校舎（附 建築文書３点）	１棟	中　込	佐久市	S44.3.12
2	史　　跡	旧中込学校	１ヶ所	中　込	佐久市	S44.4.12
3	史　　跡	龍岡城跡	１ヶ所	田　口	佐久市	S9.5.1
4	重要文化財	紙本着色一遍上人絵伝　巻第二	１巻	野　沢	金台寺	S9.1.30
5	重要文化財	紙本墨書他阿上人自筆仮名消息	１軸	野　沢	金台寺	S9.1.30
6	重要文化財	駒形神社本殿（附　棟札４枚）	１棟	塚　原	駒形神社	S24.5.30
7	重要文化財	鉄　鐘	１口	跡　部	藤沢平治	S52.6.11
8	重要文化財	新海三社神社三重塔	１基	田　口	新海三社神社	M40.8.28
9	重要文化財	新海三社神社東本社	１棟	田　口	新海三社神社	S12.7.29
10	重要文化財	六地蔵幢	１基	入　沢	佐久市	S36.3.23
11	重要文化財	高良社（旧八幡神社本殿）	１棟	蓬　田	八幡神社	S17.12.22
12	重要文化財	福王寺の木造阿弥陀如来坐像	１体	協　和	福王寺	S25.8.29
13	重要文化財	真山家住宅	２棟	望　月	真山純子	S48.6.2
14	重要無形民俗文化財	跡部の踊り念仏	１つ	跡　部	跡部踊り念仏保存会	H12.12.27
15	天然記念物	岩村田ヒカリゴケ産地	１ヶ所	岩村田	佐久市	T10.3.3

●県指定文化財一覧表

県指定	文化財名	名　　称	員数	所在地	所有者又は継承者	指定年月日
16	県　　宝	木造阿弥陀如来坐像	１体	岩村田	西念寺	S34.11.9
17	県　　宝	刀	１口	瀬　戸	寺尾文孝	S.41.3.17
18	県　　宝	木造地蔵菩薩半跏倚像	１体	根々井	正法寺	S44.5.15
19	県　　宝	版本大般若経	５７７巻	安　原	安養寺	S63.3.24
20	県　　宝	貞祥寺三重塔	１基	前　山	貞祥寺	H4.9.10
21	県　　宝	木造阿弥陀如来及び両脇侍立像	３体	安　原	安養寺	H6.8.15
22	県　　宝	貞祥寺惣門及び山門	２門	前　山	貞祥寺	H15.4.21
23	県　　宝	井出家座敷	１室	臼　田	井出　温	S50.7.21
24	県　　宝	上宮寺梵鐘	１基	田　口	上宮寺	S52.3.31
25	県　　宝	鋳銅箔鍍金花瓶	１口	臼　田	弥勒寺	S61.3.27
26	県　　宝	金剛力士像	２体	田　口	上宮寺	H21.4.20
27	県　　宝	安養寺の木造伝法燈国師坐像	１体	安　原	安養寺	H22.10.19
28	無形民俗文化財	湯原神社式三番	１つ	湯　原	湯原神社式三番保存会	S56.2.2
29	史　　跡	三河田大塚古墳	１基	三河田	柳沢　茂	S37.7.12
30	史　　跡	伴野城跡	１ヶ所	野　沢	大伴神社・佐久市	S40.4.30
31	史　　跡	根井氏館跡	１ヶ所	根々井	正法寺	S40.7.29
32	史　　跡	北高禅師墓碑	１基	岩村田	龍雲寺	S44.10.2
33	史　　跡	岩尾城跡	１ヶ所	鳴　瀬	個人３９人	S46.5.27
34	史　　跡	平賀氏城跡	１ヶ所	常　和	個人３７人	S46.5.27
35	史　　跡	大井城跡（王城・黒岩城）	２ヶ所	岩村田	個人３４人	S46.5.27
36	史　　跡	五郎兵衛用水跡	１路	望月・浅科	佐久市・国土交通省	S58.12.26
37	天然記念物	王城のケヤキ	１本	岩村田	荒宿十二社	S61.3.27
38	天然記念物	広川原の洞穴群	１１穴９池	田　口	禅昌寺・市川栄三郎	S51.3.29
39	天然記念物	臼田トンネル産の古型マンモス化石	49 点	―	佐久市	H25.3.25

●市指定文化財一覧表１

県指定	文化財名	名　　称	員数	所在地	所有者又は継承者	指定年月日
40	有形文化財	金台寺の鉦	１口	野　沢	金台寺	S46.10.1
41	有形文化財	竹田の鉦（一）	１口	根　岸	工藤光吉	S46.10.1
42	有形文化財	竹田の鉦（二）	１口	根　岸	工藤文武	S46.10.1
43	有形文化財	平賀村中善寺大般若経	６００巻	平　賀	中善寺	S49.12.1
44	有形文化財	下桜井村寛永の五人組帳	１冊	桜　井	臼田繁雄	S49.12.1
45	有形文化財	永禄十一年上原筑前御恩御検地帳	２冊	瀬　戸	柳沢　譲	S49.12.1
46	有形文化財	平尾大社本殿	１棟	上平尾	平尾大社	S49.12.1
47	有形文化財	取出町百番観音	１００体	取出町	取出町区	S49.12.1
48	有形文化財	桃源院木造地蔵菩薩坐像	１体	鳴　瀬	桃源院	S49.12.1
49	有形文化財	大沢村旧長命寺仁王堂應永在銘石柱	１柱	大　沢	長命寺	S54.9.25
50	有形文化財	暦應在銘板碑	１基	中　込	正楽寺	S57.3.1
51	有形文化財	龍雲寺の中世文書	３８点	岩村田	龍雲寺	S62.10.20
52	有形文化財	安養寺の中世文書	７点	安　原	安養寺	S62.10.20
53	有形文化財	上直路遺跡出土遺物	一括	—	佐久市	S62.10.20
54	有形文化財	東一本柳古墳出土遺物	一括	—	佐久市	S62.10.20
55	有形文化財	北西ノ久保遺跡出土の埴輪	一括	—	佐久市	S62.10.20
56	有形文化財	周防畑Ｂ遺跡出土遺物	一括	—	佐久市	S62.10.20
57	有形文化財	中道遺跡出土遺物	一括	—	佐久市	S62.10.20
58	有形文化財	瀧ノ峯古墳群出土遺物	一括	—	佐久市	S62.10.20
59	有形文化財	後沢遺跡出土遺物	一括	—	佐久市	S62.10.20
60	有形文化財	大井法華堂修験関係文書	８５９点	岩村田	大井道也	H1.11.6
61	有形文化財	木造愛染明王坐像および脇侍木造両界大日如来坐像	３体	志　賀	法禅寺	H1.11.6
62	有形文化財	旧大沢小学校	１棟	大　沢	佐久市	H8.6.6
63	有形文化財	倉沢薬師堂（附　宮殿、石造薬師如来立像、加舎白雄自筆奉納俳額）	１棟	前　山	貞祥寺	H10.4.30
64	有形文化財	岩村田若宮神社祇園社神輿	１基	岩村田	荒宿区	H24.6.28
65	有形文化財	正法寺多層塔	１基	根々井	正法寺	H10.12.28
66	有形文化財	相沢寺仏面	４１面	臼　田	相沢寺	S48.3.10
67	有形文化財	田野口藩陣屋日記	３７２冊	—	佐久市	S50.11.22
68	有形文化財	湯原神社青銅鰐口	１口	湯　原	湯原神社	S52.3.31
69	有形文化財	大宮諏訪神社青銅鰐口	１口	入　沢	大宮諏訪神社	S52.3.31
70	有形文化財	信濃奇勝録版木	１組	臼　田	井出克征	S52.3.31
71	有形文化財	滝秩父札所観音石仏	３４尊	湯　原	湯原区	S53.2.17
72	有形文化財	水落観音町石石仏	１３尊	田　口	水落山観音院	S53.2.17
73	有形文化財	相沢寺平鉦	１口	臼　田	相沢寺	S54.3.31
74	有形文化財	弥勒寺板碑	１基	臼　田	弥勒寺	S54.3.31
75	有形文化財	医王寺板碑	１基	臼　田	医王寺	S54.3.31
76	有形文化財	御魂代石	１基	田　口	新海三社神社	S55.3.31
77	有形文化財	岩水秩父札所観音木像	３４体	平　林	岩水区	S55.3.31
78	有形文化財	大宮諏訪神社石棒	１本	入　沢	大宮諏訪神社	S57.4.1
79	有形文化財	解体人形	１体	田　口	小林美和子	S57.4.1
80	有形文化財	磨崖石仏群	５基	三　分	三分区	S58.3.25
81	有形文化財	嫗の石像	１体	下小田切	下小田切区	S58.3.25
82	有形文化財	大日宝塔	４基	三　分	遍照寺	S58.3.25
83	有形文化財	丸山家中世古文書	３点	田　口	丸山槇太	S58.3.25
84	有形文化財	新海三社神社中世古文書	３点	田　口	新海三社神社	S58.3.25
85	有形文化財	小太刀古狐丸	１振	入　沢	日向廣邦	S60.3.28
86	有形文化財	地獄極楽図	２軸	臼　田	弥勒寺	S62.3.25
87	有形文化財	入沢焼茶壺	１点	—	佐久市	S63.4.18
88	有形文化財	物部の銅印	１個	清　川	上原政彦	H5.7.1
89	有形文化財	蕨手刀	１振	—	佐久市	H5.7.1
90	有形文化財	銙帯具	１組	—	佐久市	H5.7.1
91	有形文化財	山宮家中世古文書	４点	田　口	山宮博子	H8.5.1
92	有形文化財	龍岡藩高札場	１棟	田　口	佐久市	H9.4.1
93	有形文化財	日影堂百番観音木像	１００体一式	臼　田	医王寺	H9.4.1
94	有形文化財	吉祥寺山門	１棟	入　沢	吉祥寺	H10.4.1
95	有形文化財	薬師堂薬師三尊像	３体	入　沢	日向一族	H10.4.1
96	有形文化財	泉龍院涅槃図	１軸	中小田切	泉龍院	H12.3.27
97	有形文化財	磨崖青面金剛	１尊	田　口	大工原一彦	H14.3.6

●市指定文化財一覧表２

県指定	文化財名	名　　称	員数	所在地	所有者又は継承者	指定年月日
98	有形文化財	新海三社神社中本社・西本社	２棟	田　口	新海三社神社	H14.3.6
99	有形文化財	大宮諏訪神社本殿	１棟	入　沢	大宮諏訪神社	H15.3.6
100	有形文化財	三条神社本殿	１棟	入　沢	三条区	H15.3.6
101	有形文化財	矢島の五輪塔	１基	矢　島	宝泉寺	S25.12.1
102	有形文化財	五輪塔群	１群	塩名田	塩名田区	S47.8.1
103	有形文化財	山の神石祠	１基	御馬寄	御馬寄区	S56.8.1
104	有形文化財	石仏十王像	５尊	御馬寄	御馬寄区	S56.8.1
105	有形文化財	矢島道祖神	１基	矢　島	矢島区	S62.10.1
106	有形文化財	長念寺の木造阿弥陀如来立像及び胎内文書	１体	甲	長念寺	H9.2.20
107	有形文化財	八幡神社の算額	１面	八　幡	八幡神社	H9.2.20
108	有形文化財	八幡神社の瑞垣門	１棟	八　幡	八幡神社	H9.2.20
109	有形文化財	八幡神社の随身門	１棟	八　幡	八幡神社	H9.2.20
110	有形文化財	八幡神社の本殿	１棟	八　幡	八幡神社	H9.2.20
111	有形文化財	百番観音石仏群	１００尊	春　日	飯塚宗治	S61.9.10
112	有形文化財	市川家の石造大日如来	１体	布　施	市川　豊	S61.9.10
113	有形文化財	城光院の石造庚申塔	１基	望　月	城光院	S61.9.10
114	有形文化財	城光院の石造十王像	１０尊	望　月	城光院	S61.9.10
115	有形文化財	城光院の石造宝篋印塔	４基	望　月	城光院	S61.9.10
116	有形文化財	万治の石造大日如来	１体	協　和	比田井良嗣	S61.9.10
117	有形文化財	福王寺の石造庚申塔	１基	協　和	福王寺	S61.9.10
118	有形文化財	福王寺の木造日光菩薩立像	１体	協　和	福王寺	S61.9.10
119	有形文化財	福王寺の木造月光菩薩立像	１体	協　和	福王寺	S61.9.10
120	有形文化財	福王寺の木造雨宝童子立像	１体	協　和	福王寺	S61.9.10
121	有形文化財	福王寺の木造毘沙門天立像	１体	協　和	福王寺	S61.9.10
122	有形文化財	月輪寺跡の石造笠塔婆	１基	印　内	印内区	S61.9.10
123	有形文化財	天神の元禄の石造双体道祖神	１体	協　和	天神区	S61.9.10
124	有形文化財	入布施の石造片手合掌双体道祖神	１体	布　施	入布施区	S61.9.10
125	有形文化財	牧布施の石造庚申塔	１基	布　施	牧布施区	S61.9.10
126	有形文化財	不動明王立像	１体	春　日	蓮華寺	H20.6.13
127	無形民俗文化財	岩村田祇園におけるお船様祭り	１つ	岩村田	荒宿区	S58.9.1
128	無形民俗文化財	鳥追い祭り	１つ	甲	鳥追い祭り保存会	H9.2.20
129	無形民俗文化財	岩下の踊り念仏	１つ	春　日	岩下踊り念仏保存会	S61.9.10
130	無形民俗文化財	根神社の式三番叟	１つ	春　日	根神社式三番叟保存会	S61.9.10
131	無形民俗文化財	榊祭	１つ	望　月	望月区	S61.9.10
132	無形民俗文化財	春日本郷地区道祖神祭り	１つ	春　日	春日本郷地区	H10.2.20
133	史　　跡	大梅禅師墓碑	１基	内　山	正安寺	S45.10.1
134	史　　跡	鵜縄沢端一里塚東塚	１基	岩村田	関口芳幸	S45.10.1
135	史　　跡	安原大塚古墳	１基	安　原	英多神社	S45.10.1
136	史　　跡	北西ノ久保の石造塔婆群	１群	岩村田	信州短期大学	S49.12.1
137	史　　跡	正楽院の供養塔	１基	平　賀	長福寺	S49.12.1
138	史　　跡	前山城跡	１ヶ所	前　山	個人１１人	S56.4.23
139	史　　跡	瀧ノ峯古墳群	４基	根　岸	個人６名	S62.10.20
140	史　　跡	後沢遺跡	１ヶ所	小宮山	佐久市	S62.10.20
141	史　　跡	蛇塚古墳	１基	臼　田	佐久市	S47.5.5
142	史　　跡	幸神古墳群	４基	田　口	新海三社神社	S47.5.5
143	史　　跡	西の窪１９号古墳	１基	入　沢	桜井やす	S47.5.5
144	史　　跡	塩名田本陣跡	１棟	塩名田	丸山良一	S25.12.1
145	史　　跡	御馬寄古城跡	１ヶ所	御馬寄	山浦幸之助外	S25.12.1
146	史　　跡	土合一号古墳	１基	甲	金箱　保	S25.12.1
147	史　　跡	火の雨塚古墳	１基	桑　山	寺尾福丸	S25.12.1
148	史　　跡	虚空蔵のろし台跡	１ヶ所	矢　島	八幡神社	S25.12.1
149	史　　跡	舟つなぎ石	１	塩名田	国土交通省	S25.12.1
150	史　　跡	野馬除け柵跡	数ヶ所	御牧原	個人所有	S35.8.15
151	史　　跡	中山道一里塚跡	１ヶ所	甲	山本武広	H9.2.20
152	史　　跡	八幡宿本陣跡	１ヶ所	八　幡	小松勇夫	H9.2.20
153	史　　跡	兜山古墳	２基	八幡・蓬田	依田　仁	H16.11.24
154	史　　跡	下吹上遺跡	１ヶ所	協　和	佐久市	S61.9.10
155	史　　跡	中山道		布施・望月・茂田井	佐久市	S61.9.10

●市指定文化財一覧表 3

県指定	文化財名	名　　称	員数	所在地	所有者又は継承者	指定年月日
156	史　　跡	王塚古墳	1基	協　和	比田井区	S61.9.10
157	名　　勝	皎月原	1ヶ所	小田井	佐久市	S53.2.1
158	天然記念物	白山神社イチイの古樹	1本	常　和	白山神社	S45.10.1
159	天然記念物	野沢町の女男木	1本	野　沢	大伴神社	S46.10.1
160	天然記念物	チョウゲンボウ	生息地　2ヶ所	伴野・鳴瀬	—	S53.2.1
161	天然記念物	お神明の三本松	1本	上小田切	上小田切西区	S47.5.5
162	天然記念物	入沢風穴	1ヶ所	入　沢	三石嗣佳	S48.3.10
163	天然記念物	キレハエビラシダ	1群	上小田切	上小田切区	S63.11.21
164	天然記念物	黒沢家　コナラ	1本	湯　原	黒沢家	H16.2.13
165	天然記念物	児落場峠天然カラマツ	1本	入　沢	佐久市	H16.2.13
166	天然記念物	関所破りの桜	1本	甲	市川恒世	S44.5.15
167	天然記念物	勝手神社のケヤキの木	1本	御馬寄	勝手神社	H15.10.30
168	天然記念物	山の神のコナラ群	1群	春　日	春日財産区	H9.3.14
169	天然記念物	小野山家のエドヒガン	1本	春　日	小野山駿吉	H9.3.14
170	天然記念物	蓮華寺のスギ	1本	春　日	蓮華寺	H9.3.14
171	天然記念物	大井家のエドヒガン	1本	協　和	大井誉敬	H9.3.14
172	天然記念物	福王寺のヒイラギ	1本	協　和	福王寺	H9.3.14

●国登録有形文化財一覧表

国登録	文化財名	名　　称	員数	所在地	所有者又は継承者	指定年月日
1	建　造　物	武重本家酒造及び武重家住宅	30棟	茂田井	武重徳衛	H12.4.21
2	建　造　物	市川家住宅主屋と土蔵	2棟	中　込	市川平八郎	H17.6.17
3	建　造　物	佐藤家住宅主屋　他7件	8件	協　和	佐藤正臣	H23.10.28

2　普及・公開

(1) 国史跡・重要文化財　旧中込学校及び資料館

開館日数－ 309 日

入館者数－ 7,566 人

開校記念事業実施－ 9/30

平成 21 年度において実施した旧中込学校校舎の保有耐震性能調査、耐震基礎診断結果を基に耐震補強工事の実施方法等を検討し、老朽化部分の補修と併せて保存整備を図る。

旧中込学校付属資料館

ガソリンカー・蒸気機関車

(2) ガソリンカー及び蒸気機関車（見学無料）

旧中込学校付属資料館南隣りに公開展示

○ガソリンカー「キホハニ 56 号」

JR 小海線の前身佐久鉄道で昭和 5 年から県下で初めて使用され、第 2 次世界大戦まで活躍した。

○蒸気機関車「SL：C56　101 号」

C56 型蒸気機関車は、昭和 10 年に C12 型の改良型として 164 両が製造され、全長 14.3 m、高さ 3.9 mで出力 505 馬力・最高速度 75 ｋｍ／ｈの性能でした。小海線を走る C56 型蒸気機関車は、昭和 10 年小海線全線開通とともに配置され、以後「高原のポニー（仔馬）」と呼ばれ人々に親しまれたが、昭和 47 年 12 月に鉄路よりその姿を消しました。

(3) 島崎藤村旧宅（前山 貞祥寺敷地内）

公開日数－ 149 日

4 月下旬から 11 月上旬 (11 月中旬から 4 月中旬は閉館) まで公開。

観覧者　－ 1,867 人

藤村（本名:春樹 1872 ～ 1943）が、1899 年（明治 32 年） 4 月小諸義塾教師として小諸へ赴任してきてから 1905 年（明治 38 年） 4 月同教師を辞するまでの 6 年間をこの家で過ごした。

この家は、大正 9 年、本間邸の一部として佐久市前山南に移転されたが、藤村生誕 100 年を迎えた 1972 年（昭和 47 年）、本間氏をはじめ諸方面の理解と協力に基づき、昭和 48 年から 49 年に解体復元工事を行い、現在に至る。

(4) 国史跡　龍岡城跡

この城を築いたのは、大給松平最後の 11 代目藩主松平乗謨。乗謨の松平家は家康より 5 代前の親忠の時に分家した徳川の一族で大給松平といわれた。代々三河の奥殿（愛知県岡崎市）に本領を置き、奥殿に 4 千石の領地のほか、摂津、河内、丹波の 3 カ国に 1 万 2 千石を持っていた。宝永元年（1704） 3 カ国の 1 万 2 千石が信州佐久に移され、以来 160 年間、佐久には陣屋を置いて統治していた。

文久 2 年（1862）幕府は参勤交代制の緩和政策をとり、妻子は帰国させることにした。当時の情勢は、薩長を中心とする幕府打倒の動きから東海道に面した三河・奥殿藩のような小藩は両勢力の対立の中では危険が多く、家族を国元に帰すには奥殿より佐久の方が安全であること等から信州への本領替えを決意した。

文久 3 年本領替えの許可がおり、翌元治元年（1864）着工、足掛け 4 年、慶応 3 年（1867）に新陣屋五稜郭は完成した。

藩主乗謨は学才識見ともにすぐれた英主で、幕府の陸軍奉公、老中格、陸軍総裁などの要職につき、開国論者であり洋学に詳しく、練兵は他藩に先んじてフランス式を採用していた。

このため築城にあたっては、フランスのボーバン元帥が考案したといわれる星形稜堡の洋式築城法で築城された。石垣工事には、洋式築城に経験のある高遠藩から棟梁と石工 60 人を招いた。日本で最後に完成した城で、函館五稜郭とともに日本に二つしかない五つの角をもつ星形稜堡の洋式の城である。

明治 4 年、廃藩とともに新陣屋五稜郭の土地・建物はほとんど処分された。大広間、書院、東通用門、薬医門は買い取られて市内に残っている。御台所だけは引き取り手がなく、明治 5 年学制発布により、学校としての使用申請が認められたため、唯一の遺構として残された。明治 8 年から学校として内部を改造して使用され、昭和 4 年現在地に移され、昭和 35、36 年にわたり半解体復元工事が行われた。堀はもとの持ち主に返されたが、いつしか埋められ畑に変わって桑の木が一面に植えられた。（明治 30 年頃のこと） 1932 年（昭和 7 年）、堀をもう一度掘り起こそうと旧田口村の人たちが村をあげて復元にとりかかり、昭和 8 年、堀はもとの姿を取り戻し、翌昭和 9 年、文部省から史跡に指定された。

・龍岡城跡保存管理計画の策定

今後、国史跡龍岡城跡を適切に保存・管理し、具体的方針を示して活用していくことを目的として、次世代へ確実に引き継ぐために龍岡城跡保存管理計画を策定した。（計画策定年度：平成 23 年度～ 24 年度）

国史跡龍岡城跡

(5) 撮影・掲載

文化財の撮影・掲載（放映を含む）は、旧中込学校、龍岡城跡を中心に 26 件ありました。

3　望月町誌編纂事業

望月地域の自然、民俗、歴史等の事実を明らかにし、記録として後世に残すため、望月町誌全 5 巻と別巻 2 冊の刊行が終了しました。平成 23 年度～ 25 年度は、編纂事業の過程で収集した資料の公開整備と資料目録を発刊します。

●平成24年度　文化財　撮影・掲載一覧表

資料名	申請者	目的	期間
龍岡城跡写真	(有) 交通新聞社	写真撮影・JR時刻表6月号に写真掲載	平成24年4月4日撮影
旧中込学校写真	(有) ハマユ	「背景ビジュアル資料」別冊保存版「明治・大正・昭和の洋館」に掲載	
龍岡城跡空撮写真	(株) 碧水社	「戦国武将と名城の知略と罠と呪いの秘話」に掲載	
龍岡城跡・旧中込学校の写真及び情報	昭文社	マップルに掲載	
龍岡城跡お台所内展示物6点の写真	松岡利郎	「愛城研報告」6号に掲載	
旧中込学校・龍岡城跡及びお台所内部の撮影及び放映	国際放映 (株)	BS朝日「鉄道・絶景の旅」～小海線編～で放映	平成24年7月24日撮影
藤村旧宅写真	ジーグレイプ (株)	「文豪の家」に掲載	
臼田トンネル産古型マンモス化石の写真	八十二文化財団	八十二文化財団文化財情報に登録	
旧中込学校の写真撮影・掲載	(株) フォト信州	「信州の洋館」に掲載	平成24年9月26日撮影
龍岡城跡撮影・放映	(有) キャップストーン	テレビ東京「所さんの学校では教えてくれないそこんトコロ！」で放映	平成24年10月14日撮影
紙本着色一遍上人絵伝　巻第二の写真	(株) ベネッセコーポレーション	中学生向け通信教育教材に掲載	
田野口藩陣屋日記享保10年正月11日条、安永9年3月18日・6月20日の条の掲載	橋本鶴人	東京都部落解放研究所「解放研究」第26号に活字掲載するため	
佐久市の文化財掲載の貞祥寺惣門及び山門の写真	長野県教育委員会	長野県指定文化財調査報告書に掲載	
平成24年1月3日開催鳥追い祭り（広報広聴課撮影）の写真	(株) 東信ジャーナル	読売新聞折り込み「おらほよみうり」に掲載	
旧中込学校の写真及び情報	(株) エディトルーム・カノン	昭文社「たびまる信州」に掲載	
旧中込学校の写真及び情報	(株) エディトルーム・カノン	昭文社「マップルマガジン信州2014」に掲載	
旧中込学校リーフレット掲載内容	(株) 交通新聞社	交通新聞2013年4月24日ミュージアムに掲載	
柳沢文眞　稲田養鯉図の写真	(株) まちなみカントリープレス	KURA3月号掲載	
島崎藤村旧宅・旧中込学校の写真及び情報	(株) 第一アドシステム	るるぶ観光データベースに掲載	
佐久市の文化財掲載新海三社神社三重塔・東本社・井出家座敷・上宮寺梵鐘・金剛力士象・広河原の洞穴群写真	臼田支所経済建設課長	市観光案内板作成	
龍岡城跡の写真及び情報	(株) 第一アドシステム	るるぶ観光データベースに掲載	
龍岡城の桜写真	(株) 長野こまち 外注ライター　室あゆみ	「長野こまち」5月号掲載	
旧中込学校の写真及び情報	クエストルーム (株)	昭文社「マップル軽井沢'14」に掲載	
旧中込学校の写真	(株) K & B パブリッシャーズ	昭文社「まっぷるマガジン　ベストドライブ信州」に掲載	
田口小学校（龍岡城跡）全景写真	国土地理院	地図と測量の科学館　企画展「みんな地図と仲良くなろう」展示パネルに使用	

Ⅱ　埋蔵文化財事業

1　保護・保存（記録保存）

(1) 概要

国民共有の財産であると同時に、地域の歴史と文化に根ざした歴史的遺産である埋蔵文化財の保護・保存及び調査・研究を行い、その成果を出土品の展示や説明会・少年考古学教室の開催、歴史講座の実施等を通じて広く公開することにより、市民の文化財に対する理解を深めるとともに、文化財愛護精神の高揚を図ります。

埋蔵文化財は、文化財保護法で「土地に埋蔵されている文化財」と定義されており、文化財の種類ではなく、文化財の存在する状態を意味し、一般的に、「遺跡」と呼ばれているものです。埋蔵文化財は、歴史的文化の解明に欠かせない貴重な財産です。

市内で現在周知されている遺跡数は、

①集落址、遺物散布地等　855 箇所
②城館跡　96 箇所
③古墳、横穴、塚　219 箇所

の合計 1,170 箇所ですが、今後山間部や水田下などから、新たに遺跡が発見される可能性があります。

平成 24 年度は受託事業 12 件、市関係 7 件、国庫補助による試掘 40 件、立会 53 件、本調査 1 件の計 113 件の記録保存調査を実施しました。

開発原因者	調査実施数				報告書刊行
	発掘	整理	試掘	立会	
国				1	
県・佐久建設事務所		1	2	9	
佐久市・佐久広域連合	3	4	8	8	1
個人・民間企業	5	7	30	35	7
合計	8	12	40	53	8
原因者負担	7	11			
国・県補助	1	1	40	53	

(2) 発掘調査・整理調査

No	遺跡名	調査面積	所在地	開発事業	調査概要	報告書
1	南近津遺跡Ⅲ他	7,600㎡	長土呂	土地区画整理	弥生時代後期から中世の集落跡	
2	大豆田遺跡Ⅳ	15,132㎡	長土呂	小学校建設	弥生時代後期から中世の集落跡	
3	野馬窪遺跡Ⅵ	472㎡	猿久保	市道改良	古墳時代から平安時代の集落跡	
4	下金井遺跡	1,358㎡	小田井	宅地造成	古墳時代の集落跡	
5	宮の上遺跡Ⅴ	190㎡	横　和	工場建設	平安時代の集落跡	
6	道常遺跡Ⅱ	120㎡	長土呂	宅地造成	古墳時代から中世の集落跡	
7	上大豆塚遺跡	150㎡	長土呂	宅地造成	弥生時代の集落跡	

(3) 整理調査

No	遺跡名	所在地	開発事業	調査概要	報告書
1	宮浦遺跡群他	伴野他	道路改良	弥生時代後期から中世の集落跡	
2	井戸尻遺跡他	鳴瀬・塩名田	市道改良	弥生時代後期の集落跡	第 203 集
3	東一本柳遺跡Ⅱ	岩村田	公営住宅整備	弥生時代後期の環濠	
4	西近津遺跡Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ	長土呂	市道改良	弥生時代後期から平安時代の集落跡	
5	龍岡城跡Ⅲ	田　口	史跡整備事業	近世の城郭	
6	野馬窪遺跡Ⅴ	猿久保	移動無線基地局建設	平安時代の集落跡	第 204 集
7	和田上遺跡Ⅱ他	瀬戸他	佐久リサーチパーク供給線新設	縄文時代後期から平安時代の集落跡	第 206 集
8	中堰遺跡	平　賀	特別養護老人ホーム建設	弥生時代後期から平安時代の集落跡	第 202 集
9	中道遺跡Ⅲ	前　山	移動無線基地局建設	弥生時代後期の集落跡	第 205 集
10	西近津遺跡Ⅷ	長土呂	集合住宅建設	縄文時代中期から平安時代の集落跡	第 207 集
11	西近津遺跡Ⅸ	長土呂	集合住宅建設	弥生時代後期から古墳時代の集落跡	第 207 週
12	上聖端遺跡Ⅱ	長土呂	社屋等建設	奈良時代の集落跡	第 211 集
13	市内遺跡	市　内		平成 23 年度の試掘・立会調査	第 212 集
14	年報	市　内		平成 23 年度の発掘調査	

(4) 試掘・立会調査

No	遺　跡　名	所在地	開発主体者	開発事業名	調査面積（㎡）	開発面積（㎡）	保護措置	調査期間
1	岩村田遺跡群	岩村田	積水ハウス㈱	宅地造成	43.20	5,969.54	試掘	H24.4.17
2	岩村田遺跡群	岩村田	加藤英機	個人住宅	35.28	406.47	試掘	H24.4.26
3	枇杷坂遺跡群	岩村田	社会福祉法人 小諸青葉会	福祉施設	160.20	704.02	試掘	H24.4.24
4	野馬窪遺跡群	猿久保	佐久市	武道館 多目的運動場	1,196.00	38,242.00	試掘	H24.7.9 ～ 13
5	野馬窪遺跡群	猿久保	佐久市	研修センター	2,432.00	13,000.00	試掘	H24.7.9 ～ 26
6	猿久保屋敷添遺跡	猿久保	中村伊勢雄	集合住宅	86.40	446.94	試掘	H24.5.16
7	周防畑遺跡群	長土呂	㈱ケンショウ	倉庫	88.00	1,566.72	試掘	H24.5.14
8	松の木遺跡	岩村田	佐久市立国保 浅間総合病院	保育所	58.40	856.00	試掘	H24.7.5
9	上砂田遺跡 松の木遺跡	岩村田	長野都市ガス㈱	事務所・店舗・倉庫	500.00	2,556.00	試掘	H24.5.21・22
10	野馬窪遺跡群	猿久保	佐久市	道路	334.00	13,347.00	試掘	H24.7.9 ～ 11
11	岩村田遺跡群	岩村田	重田一太郎	個人住宅	29.70	304.00	試掘	H24.6.25
12	岩村田遺跡群	岩村田	隅田潤・俊子	個人住宅	40.60	783.56	試掘	H24.7.3
13	栗毛坂遺跡群	岩村田	江元茂人	集合住宅	174.00	1,079.00	試掘	H24.7.31
14	前田遺跡群	塚　原	㈱ローソン	店舗	278.00	2,315.28	試掘	H24.8.22
15	枇杷坂遺跡群	岩村田	長野県	学校	450.00	2,069.00	試掘	H24.7.3
16	常田居屋敷遺跡群	常　田	㈱井出コーポレーション	宅地造成	279.9.0	2,329.00	試掘	H24.8.27・28
17	枇杷坂遺跡群	佐久平駅東	㈱本久ホールディングス	店舗	326.20	2,476.88	試掘	H 24.8.23・24
18	宮の前遺跡	下平尾	㈱さくら医研	介護施設	221.00	1,488.08	試掘	H24.8.30
19	枇杷坂遺跡群	佐久平駅南	佐久市	公園造成	105.60	27,379.06	試掘	H24.9.3
20	周防畑遺跡群	長土呂	土屋良子	集合住宅	36.00	244.80	試掘	H24.9.19
21	枇杷坂遺跡群	岩村田	井出雅男	集合住宅	167.70	820.00	試掘	H24.11.20
22	丸山遺跡	下小田切	佐久広域連合	消防署庁舎	488.00	3,292.76	試掘	H24.11.8・9
23	周防畑遺跡群	長土呂	佐久市	斎場施設	283.20	15,247.00	試掘	H24.11.27・28
24	宮の上遺跡群	横　和	㈱シナノ	工場	414.00	1,234.00	試掘	H24.11.5
25	上砂田遺跡	岩村田	JA 佐久浅間 ㈱アメック	宅地造成	276.00	1,741.00	試掘	H24.10.31・11.1
26	大塚遺跡群	中　込	佐久市	道路	51.20	8,000.00	試掘	H24.11.29
27	周防畑遺跡群	長土呂	㈲マイティー長野	宅地造成	415.50	9,629.00	試掘	H24.12.4・5
28	望月城跡	望　月	ソフトバンク モバイル㈱	無線基地局	19.60	343.00	試掘	H24.12.6
29	岩村田遺跡群	岩村田	清原炎	集合住宅	19.60	146.09	試掘	H24.12.10
30	周防畑遺跡群	長土呂	角田毅	宅地造成	86.00	1,204.00	試掘	H25.1.17
31	白拍子遺跡群	取出町	森佳利	個人住宅	31.20	434.11	試掘	H24.12.18
32	寄塚遺跡群	横　和	(株) エヌ・ティ・ティ・ ドコモ	無線基地局	7.20	38.70	試掘	H24.12.21
33	猫久保遺跡群	安　原	中嶋拓也	個人住宅	15.00	400.78	試掘	H25.1.7
34	常田居屋敷遺跡群	長土呂	(有) 田園不動産	宅地造成	375.50	4,961.20	試掘	H25.2.19 ～ 21
35	深堀遺跡群	瀬　戸	(株) 田	宅地造成	226.80	1,789.73	試掘	H25.1.18
36	中道遺跡群	前　山	(有) 信濃土地開発	宅地造成	100.00	1,537.00	試掘	H25.1.24
37	枇杷坂遺跡群	岩村田	井出雅男	集合住宅	172.80	1,042.21	試掘	H25.3.18・19
38	常田居屋敷遺跡群	塚　原	須江建設工業 (株)	宅地造成	352.80	2,271.00	試掘	H25.3.21
39	西裏遺跡群	大　沢	(株) ホンダカーズ長野中央	事務所・工場	112.00	2,623.25	試掘	H25.3.7
40	塚原屋敷添遺跡	塚　原	長野県佐久建設事務所	道路	8.00	226.90	試掘	H25.2.25

No	遺　跡　名	所在地	開発主体者	開発事業名	開発面積（㎡）	保護措置	調査期間
41	倉澤遺跡	前　山	本間徳恵	墓地	300.00	立会	H24.5.11
42	田中島遺跡	御馬寄	山浦次男	擁壁	40.00	立会	H24.5.9
43	松の木遺跡	岩村田	長野県佐久建設事務所	道路	200.00	立会	H24.5.10
44	深堀遺跡群	瀬　戸	武田良博	個人住宅	259.63	立会	H24.5.1
45	権現山遺跡群	八　幡	㈲ピースランド	店舗	874.53	立会	H24.10.16
46	岩村田遺跡群	岩村田	田中ゆみ	個人住宅	417.59	立会	H24.5.21・22
47	池田遺跡	茂田井	田辺茜	個人住宅	69.95	立会	H24.9.21
48	大塚遺跡群	中　込	蒲原博子	個人住宅	162.57	立会	H24.6.1
49	新小路遺跡	春　日	佐久市	道路	2,775.00	立会	H24.10.16
50	宮の前遺跡	塚　原	長野県佐久建設事務所	道路	739.00	立会	H24.11.15
51	五庵遺跡・龍岡城跡	田　口	吾妻幸雄	個人住宅	337.75	立会	H24.7.3
52	樋村遺跡	平　賀	中沢孝司・歩美	個人住宅	328.73	立会	H24.6.27
53	郷源氏遺跡	志　賀	関本奈津子	個人住宅	305.88	立会	H24.6.12
54	岩村田遺跡群	岩村田	星野博信	個人住宅	330.66	立会	H24.7.19
55	大塚遺跡群	中　込	島沢幸司	個人住宅	348.50	立会	H24.7.23
56	三分遺跡群	三　分	小寺和伸・詩織	個人住宅	975.87	立会	H24.7.26
57	西一里塚遺跡群	平　塚	㈱にじゅういちプラスワン	宅地造成	993.00	立会	H24.7.6
58	近津遺跡群	長土呂	中島悦夫	集合住宅	950.00	立会	H24.10.16・22
59	常田居屋敷遺跡群	常　田	加藤隆幸	個人住宅	471.59	立会	H24.8.2
60	龍岡城跡	田　口	中部電力㈱	電柱	2.20	立会	H24.9.18
61	原遺跡・山崎遺跡	田　口	佐久市	下水道	237.50	立会	H24.11.6・12.18
62	上向在家遺跡群	常　和	佐久市	道路	202.00	立会	H24.11.21
63	前久保遺跡	中小田切	佐久市	水路	46.00	立会	H25.1.8・9
64	西妻神遺跡	中　込	中澤孝則	個人住宅	219.39	立会	H24.11.29
65	周防畑遺跡群	佐久平駅北	佐久市	駐車場	2,630.53	立会	H24.10.2・3
66	前堀遺跡	高　柳	栗林茂雄	個人住宅	799.29	立会	H24.10.15
67	志賀神明の木遺跡	志　賀	志賀下宿区	放送施設	1.00	立会	H24.9.27
68	白拍子遺跡群	取出町	島谷茂樹	個人住宅	642.00	立会	H24.11.26
69	野沢城跡	原	小林康幸・香奈	個人住宅	241.66	立会	H24.10.30
70	一之原Ａ遺跡	一之原	長野県佐久建設事務所	道路	12,727.00	立会	H24.11.30
71	小山崎遺跡群	下小田切	長野県佐久建設事務所	道路	1,191.00	立会	H24.12.20
72	光明寺遺跡	安　原	長野県佐久建設事務所	道路	1,423.00	立会	H24.12.5
73	白岩城跡	横　根	長野県佐久建設事務所	道路	1,131.00	立会	H24.12.17
74	栗毛坂遺跡群	岩村田	白井久雄	個人住宅	189.23	立会	H24.11.19
75	長土呂遺跡群	長土呂	清野初江	個人住宅	186.43	立会	H24.12.21
76	周防畑遺跡群	長土呂	㈱　田	宅地造成	22.83	立会	H24.11.14
77	深堀遺跡群	瀬　戸	中部電力㈱	電柱	4.40	立会	H24.12.20
78	梨子木遺跡	上小田切	長野県佐久建設事務所	道路	1,319.00	立会	H25.1.28
79	上砂田遺跡・枇杷坂遺跡群	岩村田	長野県佐久建設事務所	道路	550.00	立会	H25.2.1
80	野沢城跡	取出町	佐久市	前庭改修	648.00	立会	H25.2.7
81	仁束餅遺跡	伴　野	佐久市	排水路	310.00	立会	H25.2.21
82	西一里塚遺跡群	根々井	長野県佐久建設事務所	用水路	25.00	立会	H25.2.21
83	西村中遺跡	根　岸	工藤勝己	個人住宅	168.96	立会	H25.2.21
84	山梨Ａ遺跡・駒込遺跡	桑　山	佐久市	水路	2600.00	立会	H25.2.25
85	今井宮の前遺跡	今　井	石井隆史	個人住宅	486.00	立会	H25.2.26
86	尾垂遺跡	前　山	長野国道事務所	地質調査	0.20	立会	H25.2.26
87	大奈良遺跡・原遺跡	田　口	柳澤祐一	個人住宅	495.02	立会	H25.3.12
88	寄塚遺跡群	三河田	中村　茂	個人住宅	254.87	立会	H25.3.13
89	根々井居屋敷遺跡	根々井	大塚昌宏	個人住宅	231.41	立会	H25.3.15
90	岩尾城跡	鳴　瀬	阿部幸洋	個人住宅	607.99	立会	H25.3.15

No	遺　跡　名	所在地	開発主体者	開発事業名	開発面積（㎡）	保護措置	調査期間
91	常田居屋敷遺跡群	塚原	浅野太樹	個人住宅	413.48	立会	H25.3.27
92	権現山遺跡群	矢島	比田井悦子	個人住宅	261.00	立会	H25.3.25
93	西大久保遺跡群	下平尾	山田悠貴	個人住宅	242.06	立会	H25.3.15

No	遺　跡　名	所在地	開発主体者	開発事業名	調査面積（㎡）	開発面積（㎡）	保護措置	調査期間
94	周防畑遺跡群 南下北原遺跡Ⅱ	長土呂	井出徳秋	個人住宅	101.30	253.73	本調査	H24.6.20 ～ 26

(5) 出土遺物保存処理・自然科学分析

●国補埋蔵文化財出土遺物保存処理

山の神古墳群第 1 号墳出土金属器　95 点

●宮の前遺跡他出土金属器保存処理

宮の前遺跡他出土金属器　57 点

●西近津遺跡Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ出土遺物自然化学分析

西近津遺跡Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ出土　骨類同定　62 点
　　種実同定　18 点

●中道遺跡Ⅲ出土遺物自然科学分析

中道遺跡Ⅲ出土　骨類同定　1 点
　　樹種同定　２０点
　　種実同定　２１点

●和田上遺跡Ⅱ他出土遺物自然科学分析

和田上遺跡Ⅱ出土　骨類同定　3 点
　　放射性炭素年代測定　2 点

(6) 刊行図書

第 202 集「中堰遺跡」
第 203 集「井戸尻遺跡・熊の堂遺跡」
第 204 集「野馬窪遺跡Ⅴ」
第 205 集「中道遺跡Ⅲ」
第 206 集「和田上遺跡Ⅱ・馬瀬口遺跡Ⅱ」
第 207 集「西地下追跡Ⅷ・西近津遺跡Ⅸ」
第 211 集「上聖端遺跡Ⅱ」
第 212 集「市内遺跡発掘調査報告書 2011」
佐久市文化財「年報 21」

2　普及・公開

(1) 第 33 回少年考古学教室

開催場所　長土呂「大豆田遺跡Ⅳ」
開催日　平成 24 年 8 月 2 日(木)・3 日(金)
参加者　市内小中学生　78 名
内　　容　古代遺跡の発掘体験

第 33 回　少年考古学教室

(2) 講座

次頁に掲載した一覧表のように 17 回の講座を行い、郷土の歴史文化の普及に努めました。

(3) 出土遺物展示施設利用状況

●文化財課展示室

市内の遺跡から出土した、旧石器時代から近世までの出土品約 200 点を常設展示しています。

平日の午前 8 時 30 分から午後 5 時 15 分まで無料で公開。平成 24 年度の見学者は 171 名でした。

●野沢開館ホール

市内の遺跡から出土した、縄文・弥生時代の出土品、臼田トンネル産古型マンモス化石レプリカ、朱鷺剥製を常設展示しました。

野沢会館ホールの展示

●平成 24 年度　講座一覧表

期　日	主催者	内　容	参加者
平成 24 年 5 月 16 日 (水)	文化振興課	佐久の出土遺物からみた人物像～古墳時代から平安時代	40 名
平成 24 年 5 月 22 日 (火)	公民館浅間地区館	佐久の歴史「浅間地区の地名の歴史」	40 名
平成 24 年 5 月 30 日 (水)	公民館中込地区館	稲荷山城	26 名
平成 24 年 6 月 5 日 (火)	佐久税務署	歴史講座Ⅰ佐久の原始・古代を知ろう（旧石器～弥生）	17 名
平成 24 年 6 月 8 日 (金)	一本柳区老人会	遺跡からみた一本柳の歴史	21 名
平成 24 年 8 月 29 日 (水)	公民館臼田地区館	野沢城と前山城のあゆみ	26 名
平成 24 年 9 月 11 日 (火)	公民館浅間地区館	平賀城	25 名
平成 24 年 10 月 7 日 (日)	望月まちづくり研究会	望月城	15 名
平成 24 年 10 月 9 日 (日)	公民館高齢者大学大学院	原始の社会と暮らし（弥生時代を中心として）	20 名
平成 24 年 10 月 16 日 (火)	公民館浅間地区館	望月城	25 名
平成 24 年 10 月 29･30 日 (月･火)	中込小学校	臼田トンネル発見の象化石 -100 万年前のマンモス -	82 名
平成 24 年 11 月 7 日 (水)	公民館臼田地区館	内山城と平賀城	27 名
平成 24 年 11 月 13 日 (火)	公民館高齢者大学大学院	佐久の旧石器時代狩猟民	19 名
平成 25 年 1 月 15 日 (火)	佐久市土知の森	佐久のなりたち	30 名
平成 25 年 1 月 20 日 (日)	志賀上宿公民館	笠原城攻防戦	32 名
平成 25 年 2 月 10 日 (日)	八幡区・佐久市教育委員会	八幡神社について	35 名
平成 25 年 2 月 23 日 (土)	東地区館	臼田トンネル発見の象化石 -100 万年前の古型マンモス - 佐久東地区を遊動する旧石器狩猟民	21 名

(4) 貸出・撮影・掲載

市内遺跡出土の埋蔵文化財、写真・フィルム・図面の貸出・撮影・掲載は 12 件ありました。

←西一本柳遺跡出土
人面付土器

北裏遺跡出土石戈→

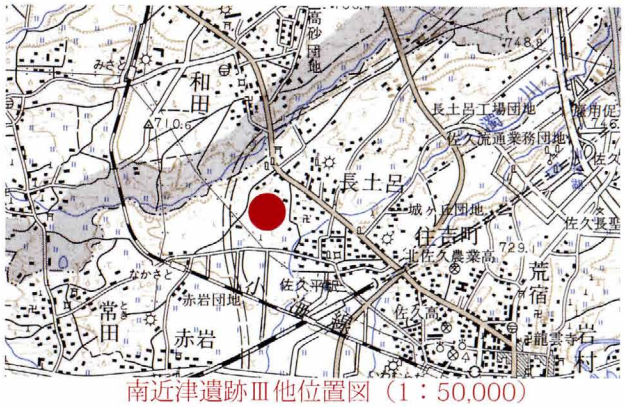
●平成 24 年度　埋蔵文化財　貸出・撮影・掲載一覧表

資料名	申請者	目　的	期　間
佐久市内出土銅鏃・北裏遺跡出土石戈・西一本柳遺跡出土石戈写真	國學院大學	東日本の弥生時代青銅器祭祀の研究（雄山閣）に掲載	
西一本柳遺跡出土人面付土器写真	佐久考古学会	佐久考古通信 No110 に掲載	
北西久保遺跡出土埴輪 6 点及び埴輪集合写真	長野県立歴史館	常設展示「シナノの埴輪」で展示	平成 24 年 8 月 28 日～平成 25 年 4 月 10 日
天神小根遺跡出土石器及び天神小根遺跡Ⅱ層上部の地形とブロックの写真	岩宿博物館	第 54 回企画展「人が動く、時代も動く - 東日本の細石器文化を追う -」で展示	平成 24 年 8 月 22 日～平成 24 年 12 月 21 日
西方ヶ上遺跡出土土器	津南町	秋期企画展「三十稲場式土器文化の世界」で展示	平成 24 年 9 月 8 日～平成 24 年 11 月 11 日
臼田トンネル産古型マンモス化石の写真	大町山岳博物館	企画展「大地はなぞだらけ - フォッサマグナ・北アルプスおいたちなぞ -」に展示、解説書に掲載	平成 24 年 10 月 27 日～平成 24 年 12 月 28 日
寄山遺跡出土縄文土器写真	平凡社	小川忠博「縄文美術館」に掲載	
浦谷 B 遺跡出土の縄文土偶	（株）週刊上田新聞社	撮影写真を「週刊うえだ」に掲載	
東一本柳古墳出土鉄鏃実測図 3 点他	平林大樹	「物質文化 75」- 信濃における後期・終末期古墳副葬族鏃の変遷 - に掲載	
大豆田遺跡Ⅳの調査状況写真	長野県埋蔵文化財センター	「信州の遺跡」第 2 号に掲載	
西一本柳遺跡出土人面付土器写真カラーポジフィルム	長野県埋蔵文化財センター	「掘ってわかった信州の歴史」への掲載、企画展ポスター等作成	平成 25 年 1 月 25 日～2 月 28 日
臼田トンネル産古型マンモス化石 3 点	長野県教育委員会	長野県教育委員会定例会で展示・説明	平成 25 年 3 月 14 日

3 調査概要

1. 南近津遺跡Ⅲ他

所　在　地	佐久市長土呂 1210-1 外
開発主体者	佐久市都市計画課
開発事業名	近津土地区画整理事業
調査期間	平成２４年４月２日～平成２５年３月２９日
調査面積	7,600㎡
調査担当者	小林眞寿・佐々木宗昭・森泉かよ子



南近津遺跡Ⅲ他位置図（1：50,000）

●経過と立地

平成 21、22、23 年度に引き続き、7,600㎡の調査を実施した。本年度が現場調査の最終年度である（平成 24 年 11 月 5 日を以て現場調査は終了した）。最終的に当該地域が有力視される佐久郡衙（古代佐久郡の郡役所）に関連する遺構は発見されなかったが、平・丸の布目瓦片は今年度も少なからず出土した（軒瓦は出土していない）。硯（円面硯）や多数の墨書土器、緑釉陶器・奈良三彩といった高級な焼き物の出土が認められる反面、役所的な墨書や遺物は存在しないことから、調査範囲は寺院や荘園、あるいは有力者の居住地であった可能性が高いものと思われる。

尚、遺構・遺物ではないが注意すべき自然現象の痕跡が、４年に及ぶ調査で確認されている。佐久平駅周辺・小海線岩村田駅周辺の発掘調査においても指摘済みの事象であるが、それは古代における大規模な地震の痕跡である。時期的には、弥生時代後期（おおよそ３世紀代）、古墳時代後期（おおよそ６世紀代）の遺構に認められた。今回の調査は、浅間火山軽石流の堆積層（11,000 年以上前）上面を便宜的に遺跡確認面として調査を実施したが、この面を詳細に観察すると、砂やシルト質土の細かなスジ状亀裂が無数に確認でき、地震による液状化現象等が推測された。無論、これらの事象は考古学的見地からの指摘であり、専門家の検証が必要であることはいうまでもない。

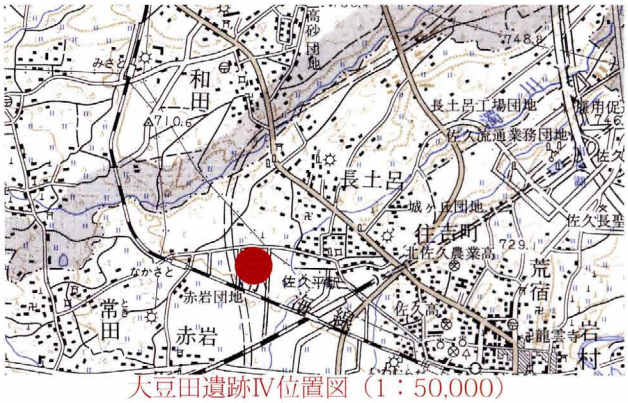
●調査の概要

○遺構　竪穴住居址 512 軒、掘立柱建物址 182 棟、周溝墓 33 基、土坑 402 基、溝址 114 条、ピット 4,922 基、竪穴建物址 5 棟
（H21 ～ H24 年度　4 年間の総数）

○遺物　縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器、奈良三彩、布目瓦、石器・石製品、鉄器・鉄製品、銅製品、中世陶磁器、骨（人・獣）

2. 大豆田遺跡Ⅳ

所　在　地　佐久市長土呂 1613-1　他
開発主体者　佐久市教育委員会　教育施設課
開発事業名　岩村田地区北部新小学校建設事業
調査期間　平成 24 年 4 月 19 日～11 月 21 日
調査面積　15,132㎡
調査担当者　冨沢一明・上原　学・久保浩一郎



大豆田遺跡Ⅳ位置図（1：50,000）

●経過と立地

大豆田遺跡Ⅳが含まれる周防畑遺跡群は、佐久市北部の長土呂地籍に所在し、北東から南西方向にのびる台地上に南北約 3㎞・幅 400 mにも及ぶ範囲を有する大遺跡である。今回調査が行われた大豆田遺跡Ⅳは、遺跡群の南部に位置し、北側よりのびる田切台地が消滅し、低地へとつながる境界部分にあたる。周辺の調査された遺跡としては、北側に接して平成 17.18 年度に市道改良工事に先立ち大豆田遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲが調査され、動物が印刻された灰釉陶器小瓶や「大井」と刻書された土器等が出土し注目された。また、西側の中部横断自動車道や北側の区画整理事業によって弥生時代から中世にわたる遺構・遺物が数多く検出されている。

今回、佐久市教育委員会により遺跡群内に岩村田地区北部新小学校建設が予定された。計画を受け文化財保護法 94 条が通知され、文化財課において試掘調査が行われた。結果、予定地全体に弥生時代と奈良・平安時代を中心とする遺構・遺物が検出された。試掘調査の結果を受け、保護協議がなされ、破壊が余儀なくなる部分については記録保存を目的とする発掘調査をすることとなった。

●調査の概要

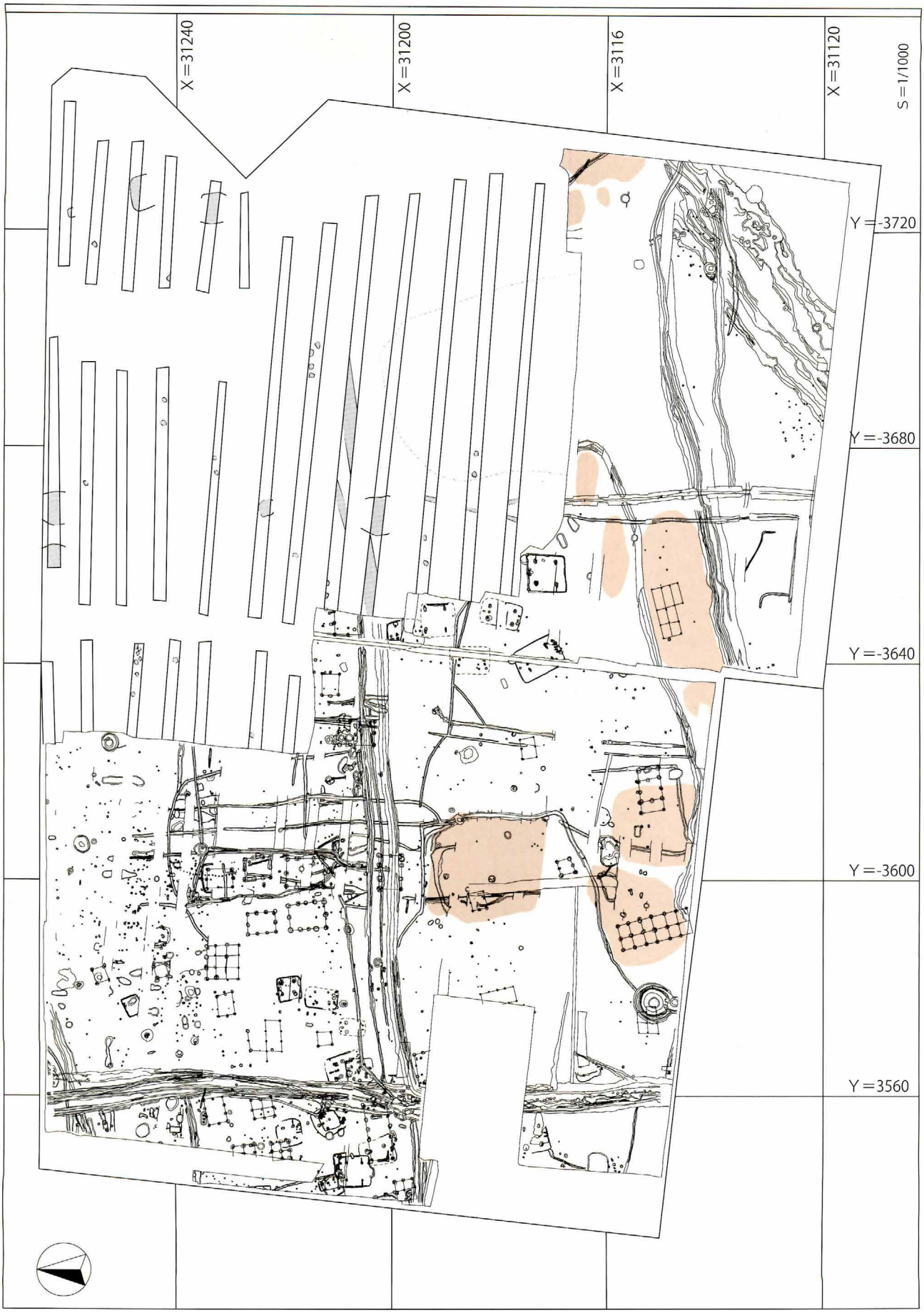
今回の調査では、縄文時代の落し穴、弥生時代及び奈良・平安時代の竪穴住居址や掘立柱建物址、中世と考えられる井戸址や溝址が検出された。また、弥生後期の箱清水式土器片が大量に出土する範囲が 10 か所確認され、内 1 か所からは壺や鉢を主体とする土器が完形のまま破棄された状態を示す箇所もあった。出土遺物としては、弥生土器が集中して出土した場所より、翡翠の勾玉やガラス小玉、管玉等が出土した。また、溝址からは古代の瓦である「軒丸瓦」が出土し、古代瓦の出土が少ない佐久地域にあって希少な出土例となった。

本遺跡はその遺構の検出状況から、北側台地上から続く集落域と、南側に広がる沖積低地での生産域の境界線付近に当たると考えられ、弥生時代や奈良・平安時代においては北東方向から南西方向に検出された溝状遺構がそれにあたると考えられる。

○遺構　竪穴住居址 30 軒（弥生後期・古墳後期・奈良・平安）、掘立柱建物址 31 棟、土坑 143 基（縄文落し穴・弥生壺棺墓・中世井戸址）、溝状遺構 86 本、土器集中区 10 ケ所

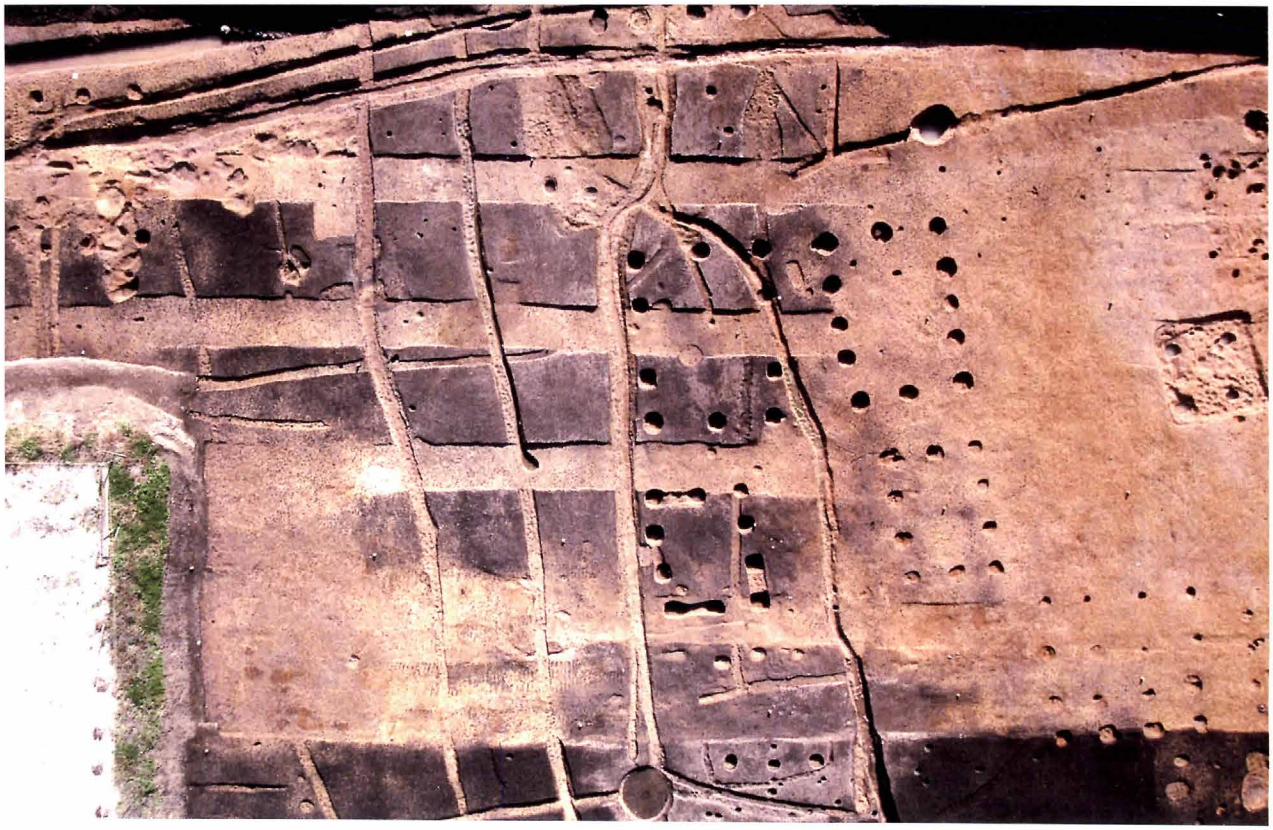
○遺物　縄文土器（中期）、弥生土器（後期・箱清水式）、土師器、須恵器、青磁、瀬戸・美濃、石器（打製石斧・石鏃・磨石）、砥石、つき臼、鉄製品（釘・鉄鏃）　古銭（開元通宝・寛永通宝）、勾玉　管玉、ガラス小玉、木製品（井戸枠・曲げ物・折敷き）、獣骨

調査風景


X＝31240
X＝31200
X＝3116
X＝31120
S＝1/1000
Y＝-3720
Y＝-3680
Y＝-3640
Y＝-3600
Y＝3560

大豆田遺跡Ⅳ全体図

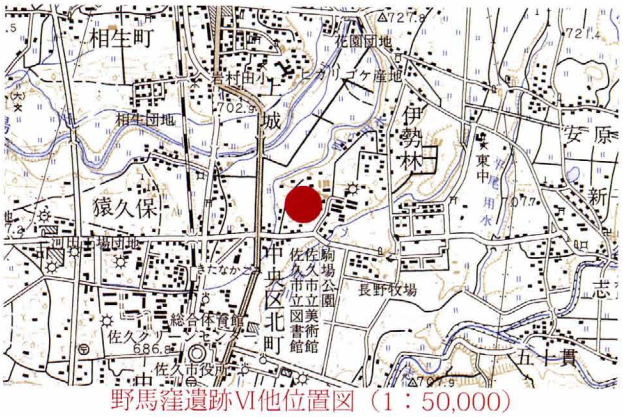
大豆田遺跡Ⅳ遠景（西より）



密集する掘立柱建物

3．野馬窪遺跡Ⅵ

所　在　地　佐久市野馬窪244-1外
開発主体者　佐久市
開発事業名　創錬の森整備事業　周辺道路整備
調査期間　平成２４年11月21日～平成２５年３月４日
調査面積　472㎡



野馬窪遺跡Ⅵ他位置図（1：50,000）

●経過と立地

野馬窪遺跡群は湯川左岸の段丘上に展開する古墳時代から中世に至る複合遺跡である。開発地域は南に向かって緩やかな傾斜を示す台地に位置し、一部地域は造成が行われ、グランド等として使用されている。標高は700～704ｍを測る。周辺の発掘調査例は、平成20年に開発地域南西の隣接地で造成工事に伴う野馬窪遺跡Ⅱ・Ⅲの調査が行われ中世の館跡が、平成23年には開発地北側の隣接地で移動通信用無線基地局建設に伴う野馬窪遺跡Ⅴの調査が行われ、平安時代の住居址２軒などが発見されている。また、西側の段丘端部付近付近で行われた試掘調査では、多数の住居址が発見されている。

今回、創錬の森整備事業に伴い、平成24年７月に遺構の有無を確認するため試掘調査を実施した結果、住居址等が発見されたことから、発掘調査を実施する運びとなった。今年度は、協議により、周辺地域の道路改良に伴う拡幅部のうち、遺跡が確認された３地区の調査を行った。

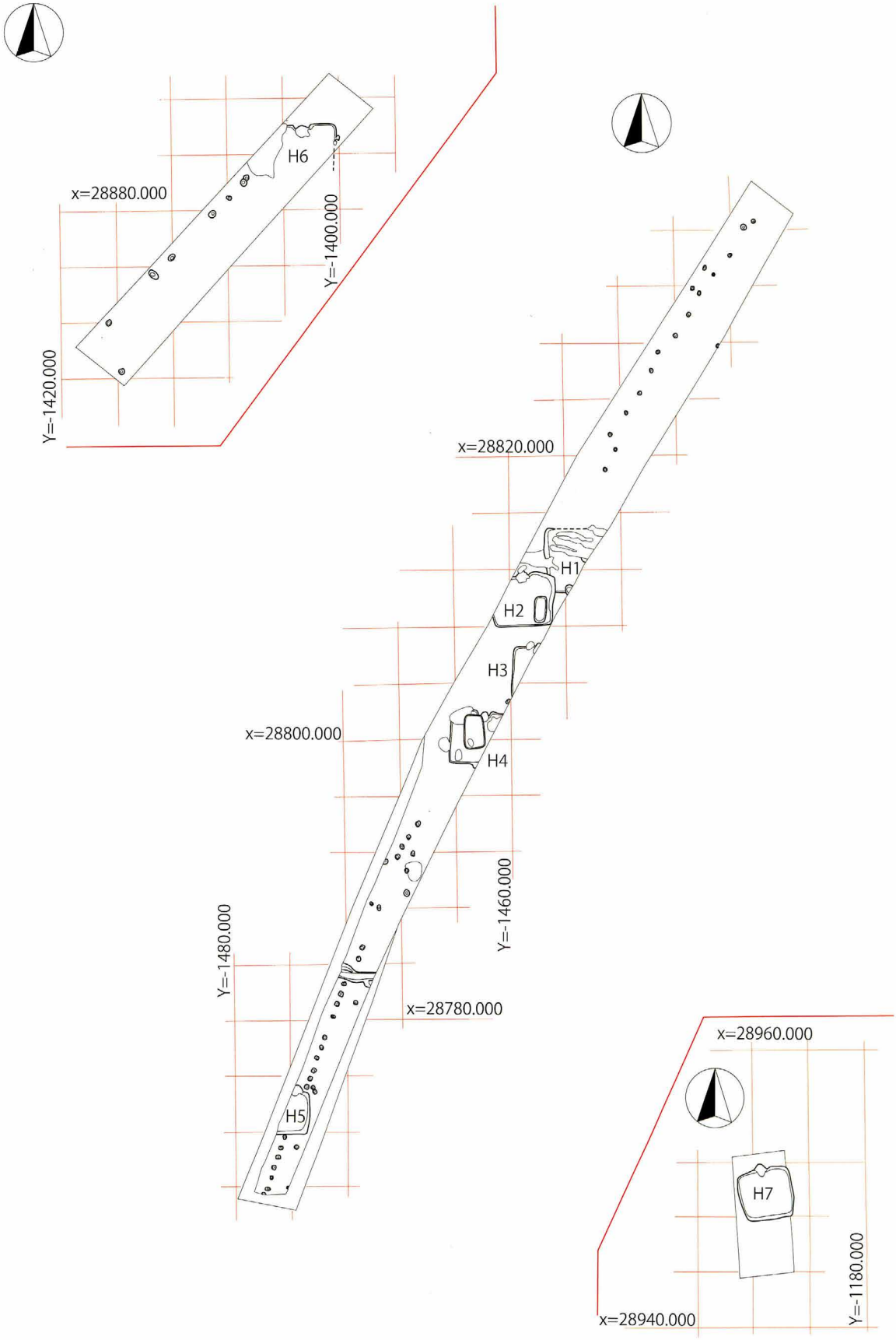
野馬窪遺跡Ⅵ全景（南から）

●調査の概要

○遺構　Ⅰ区　竪穴住居址５軒（古墳～平安）、土坑、ピット
　　Ⅱ区　竪穴住居址１軒（平安）、ピット
　　Ⅲ区　竪穴住居址１軒（平安）、ピット

○遺物　弥生土器、土師器、須恵器、灰釉陶器、石器・石製品、鉄製品

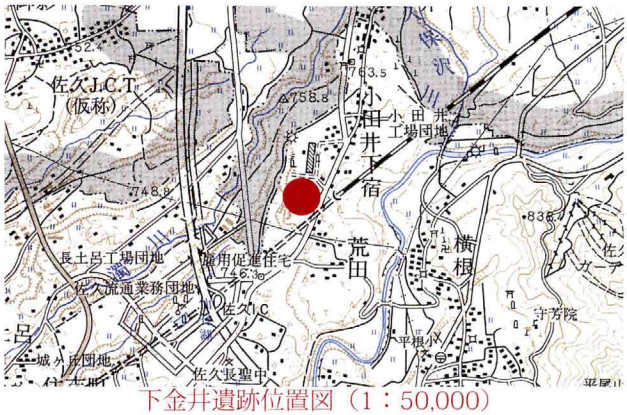
Ｈ７号住居址全景（南から）


H6
x=28880.000
Y=-1400.000
Y=-1420.000
x=28820.000
H1
H2
H3
x=28800.000
H4
Y=-1460.000
Y=-1480.000
x=28780.000
H5
x=28960.000
H7
Y=-1180.000
x=28940.000

野馬窪遺跡Ⅴ全体図

4. 下金井遺跡

所　在　地　佐久市小田井字下金井 719-2
開発主体者　株式会社　大建
開発事業名　宅地造成
調査期間　平成２４年８月６日～平成２４年 11 月 22 日
調査面積　1353.8㎡
調査担当者　上原　学



下金井遺跡位置図（1：50,000）

下金井遺跡全景（西から）

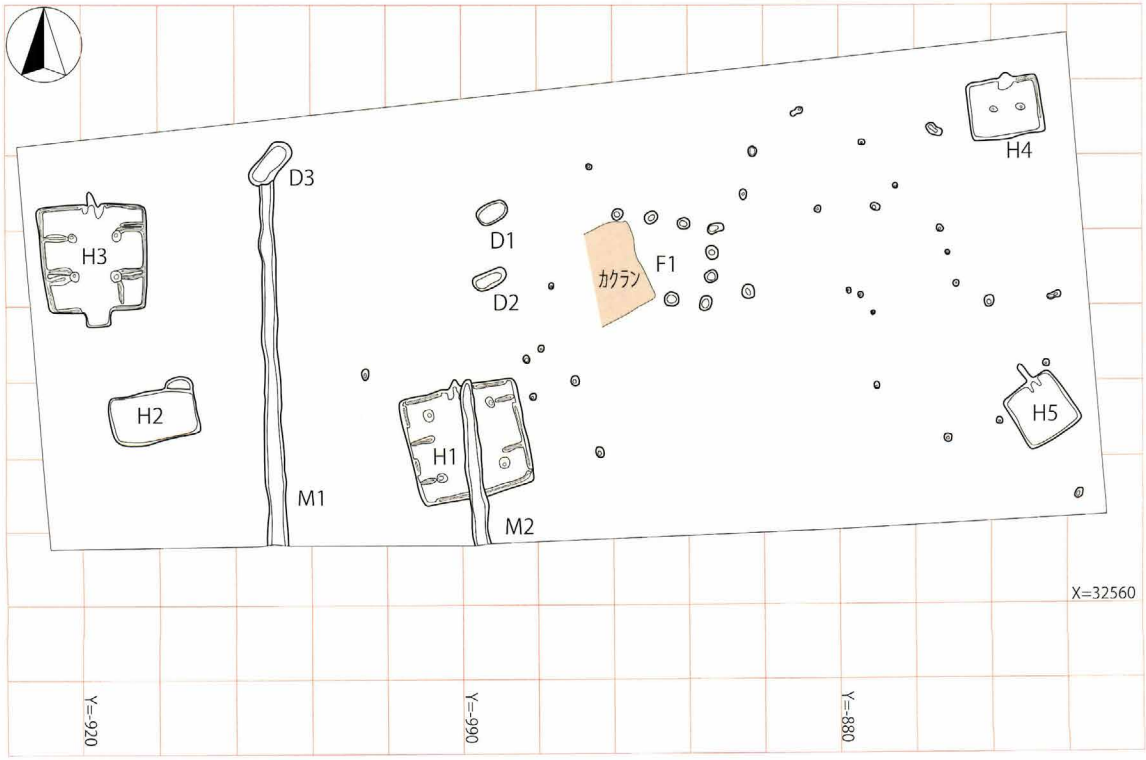
●経過と立地

中金井遺跡群は佐久市北端に位置し、佐久地域特有の、浅間山麓から放射状に延びる浸食谷である田切りに挟まれた、南北方向に細長い台地上に展開する縄文時代から中世に至る複合遺跡である。開発地域は遺跡群の台地西端に接した 21,000㎡を超える範囲で、調査対象地となる下金井遺跡はこの中央付近に位置する。標高は 749 m内外を測る。

今回、株式会社大建による宅地造成工事が行われることとなり、平成 23 年度に試掘調査を実施した。その結果、地表下 0.2 ～ 1 mで竪穴住居址等の遺構が発見された。開発主体者側と協議を重ね、道路部分及び確認面が浅い地域で発見された遺構について、記録保存を目的とした発掘調査を佐久市教育委員会が実施する運びとなった。

●調査の概要

○遺構　竪穴住居址 5 軒（古墳時代）、掘立柱建物址 1 棟、土坑 3 基、溝址 2 条、ピット 30 基
○遺物　土師器、須恵器、縄文土器、石器・石製品



下金井遺跡全体図

5. 宮の上遺跡Ⅴ

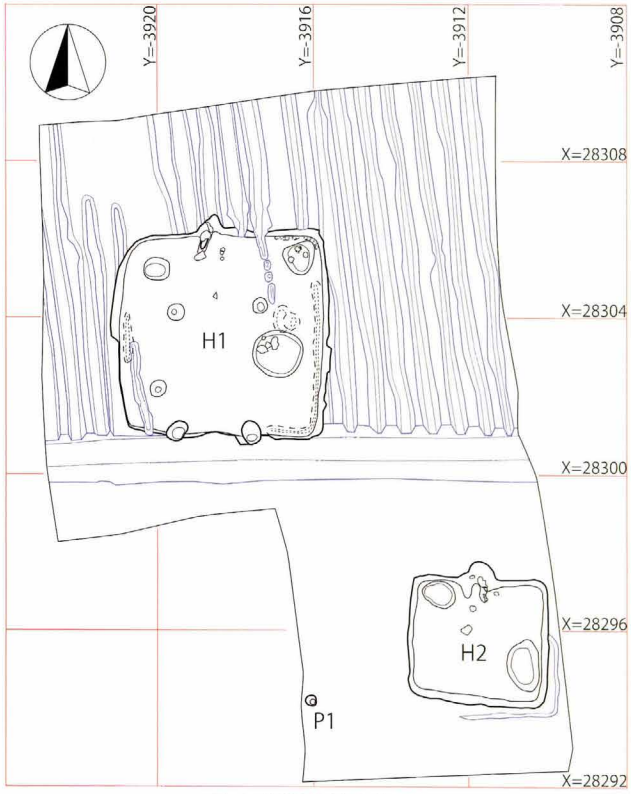
所　在　地　佐久市横和 304-1
開発主体者　株式会社　シナノ
開発事業名　社屋新築
調査期間　平成 24 年 11 月 28 日～平成 25 年 3 月 22 日
調査面積　190㎡
調査担当者　久保浩一郎

宮の上遺跡Ⅴ位置図（1：50,000）

●経過と立地

宮の上遺跡群宮の上遺跡は、佐久市横和に所在する縄文時代から平安時代までの複合遺跡である。北側の湯川と南側の千曲川・滑津川に挟まれた東西に長い台地上に位置し、標高 679m 内外を測る。

今回、遺跡内において株式会社シナノによる社屋新築工事が計画されたため、遺構の確認を目的とした試掘調査を平成 24 年 11 月 5 日に実施した。その結果、平安時代の竪穴住居址２軒が検出された。保護協議の結果、遺跡の保存が不可能な部分について記録保存を目的とする発掘調査を行うこととなった。



宮の上遺跡Ⅴ全体図

宮の上遺跡Ⅴ全景

●調査の概要

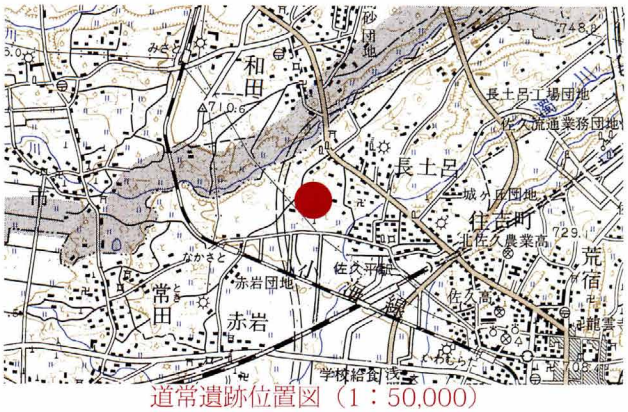
○遺構　竪穴住居址２軒（平安時代）、ピット １基
○遺物　土師器（杯・椀・甕・鉢）、須恵器（杯・甕）、灰釉陶器（椀・皿）、石製品（擦り石・敲き石）、鉄製品（釘・金具）

宮の上遺跡Ⅴ H1 号住居址完掘

宮の上遺跡Ⅴ H2 号住居址完掘

6. 道常遺跡Ⅱ

所　在　地　佐久市長土呂字道常1246-1・3　外
開発主体者　角田　毅
開発事業名　宅地造成
調査期間　平成25年1月31日～平成25年3月7日
調査面積　120㎡
調査担当者　上原　学



道常遺跡位置図（1：50,000）

道常遺跡Ⅱ全景（東から）

●経過と立地

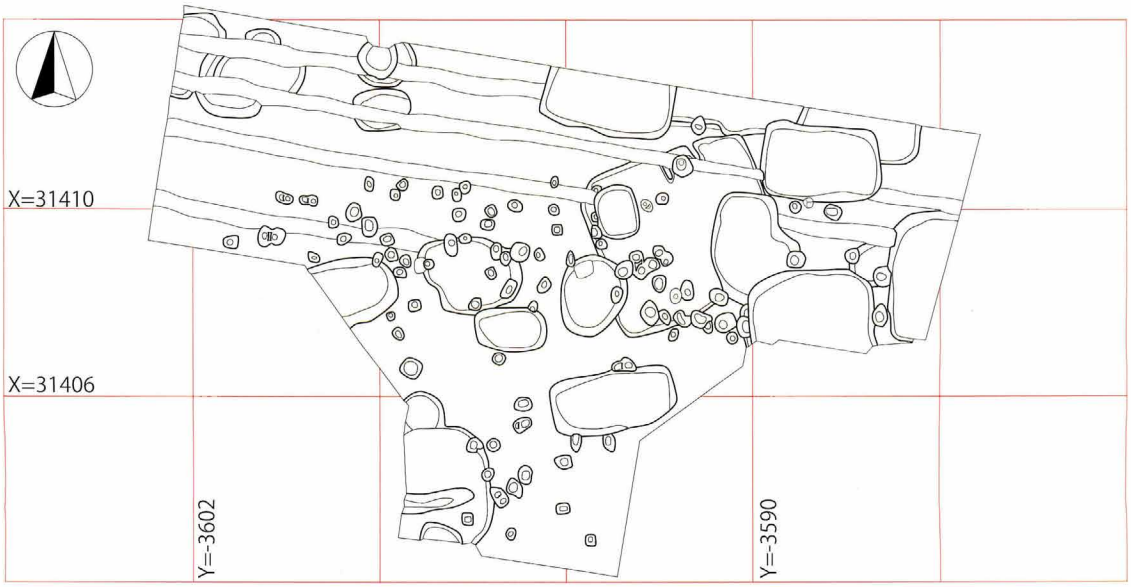
周防畑遺跡群は佐久市北部に位置し、佐久地域特有の浅間山麓から放射状に延びる浸食谷に挟まれた田切り地形の南北に細長い台地上に展開する縄文時代から中世に至る複合遺跡である。開発地域は遺跡群南の南西方向に傾斜する台地上に位置し、標高709ｍ内外を測る。周辺は、以前から遺跡の密集する地域として周知されており、近年では中部横断道建設、区画整理、学校建設といった事業に伴う大規模な発掘調査によって弥生時代から平安時代を中心とする多くの遺構・遺物が発見されている。

今回、角田毅による宅地造成工事が行われることとなり、平成25年1月に進入道路部分の試掘調査を実施した。その結果、竪穴住居址・土坑等の遺構が発見され、進入路部分の発掘調査を佐久市教育委員会が実施する運びとなった。なお、宅地部分は盛土により、遺跡の破壊は免れるため調査対象外となった。

●調査の概要

○遺構　竪穴住居址1軒（古墳時代）、竪穴建物址8棟（中世）、土坑16基（中・近世）、ピット

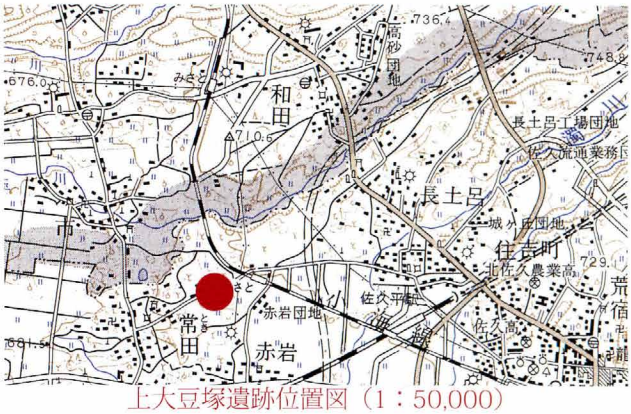
○遺物　弥生土器、土師器、須恵器、石器・石製品、古銭、布目瓦（平瓦・丸瓦）、鉄製品（角釘）



道常遺跡Ⅱ全体図

7. 上大豆塚遺跡

所　在　地　佐久市長土呂字上大豆塚 1931-1　外
開発主体者　有限会社　田園不動産
開発事業名　宅地造成
調査期間　平成 25 年 3 月 1 日～平成 25 年 3 月 26 日
調査面積　150㎡
調査担当者　久保浩一郎



上大豆塚遺跡位置図（1：50,000）

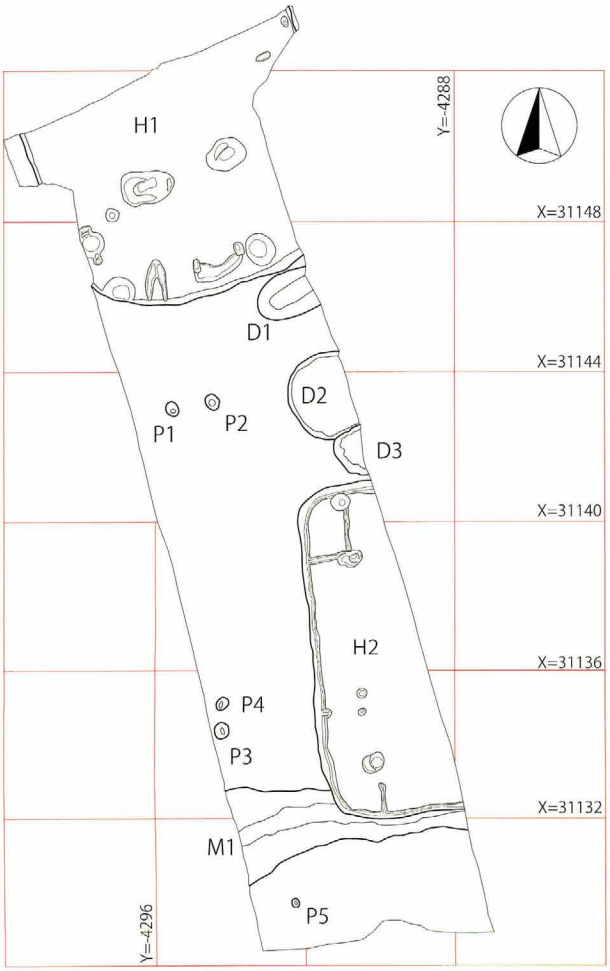
●経過と立地

常田居屋敷遺跡群上大豆塚遺跡は、佐久市長土呂字上大豆塚に所在する弥生時代後期の集落遺跡である。浅間山南麓に展開する田切り地形の台地上に位置し、標高 697m 内外を測る。南側は西近津遺跡群に接し、東側には周防畑遺跡群が存在する。ともに弥生時代から中世の複合遺跡であり、過去の発掘調査において重要な発見がなされている。本遺跡群を含めた当該地域一帯は、佐久地域において歴史的重要性を有する地域といえる。

今回、遺跡内において有限会社田園不動産による宅地造成工事が計画されたため、遺構の確認を目的とした試掘調査を平成 25 年 2 月 19 日～ 21 日に実施した。その結果、弥生時代の竪穴住居址 2 軒等が検出された。保護協議の結果、遺跡の保存が不可能な部分について記録保存を目的とする発掘調査を行うこととなった。

●調査の概要

○遺構　竪穴住居址 2 軒 (弥生時代後期)、土坑 2 基 (弥生時代後期)、ピット 5 基、溝 1 条
○遺物　弥生土器、石器、金属器



上大豆塚遺跡全体図

上大豆塚遺跡全景

4　調査報告

1. 深堀遺跡Ⅶ

所　在　地　佐久市瀬戸字下原 3503
開発主体者　(株)エヌ・ティ・ティ・ドコモ
開発事業名　無線基地局建設
調査期間　平成 24 年 11 月 21 日
調査面積　53.3㎡
調査担当者　須藤隆司

●経過と立地

深堀遺跡群は佐久市大字瀬戸に所在し、湯川と滑津川により区画された中込原台地の滑津川寄り先端部分に位置する。東方は志賀川、西方は安原用水井尻下に発達し、滑津川まで延びる田切り谷により区画される。また、この台地は浅間火山の軽石流堆積層の最南端部分でもある。標高は 670 ～ 690 mを測り、沖積地からの比高差は約 10 mである。

今回、遺跡群の西端部において株式会社エヌ・テイ・ティ・ドコモによる無線基地局建設が計画されたため、記録保存を目的とした発掘調査を実施した。

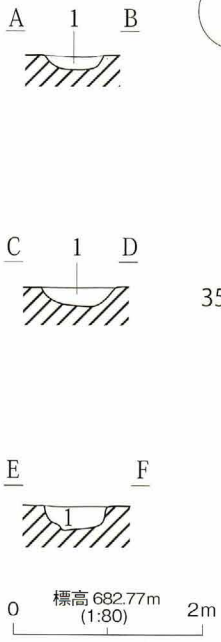
なお、調査は開発主体者が重機・作業員・測量作業等を負担し行われた。

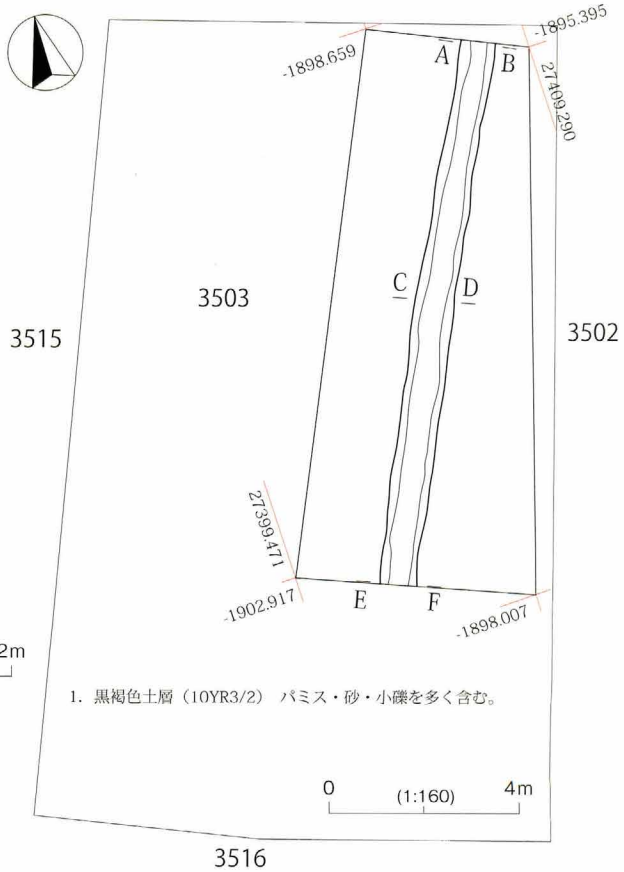
深堀遺跡Ⅶ位置図（1：50,000）

●調査の概要

調査区を南北方向に走る溝址 1 条が検出された。長さ 11.5 m、幅 65 ～ 80㎝、深さ 20 ～ 25㎝の規模であり、南側の谷方向に向かいわずかに傾斜していた。遺物は検出されなかった。この溝址は深堀遺跡Ⅱ・Ⅲ・Ⅴで調査されたM 62・63 と同一のものである。

溝址全景





深堀遺跡Ⅶ全体図

5　資料紹介

1. 墨書土鍋　　冨沢一明

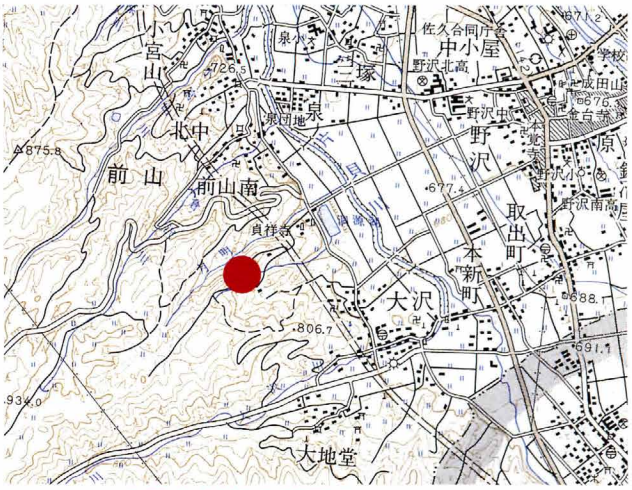
本資料は現佐久市立泉小学校資料室に保管されていたもので、元々は前山小学校（昭和42年3月閉校）に保管されていた。

土鍋は大字前山の蓼科山麓中、伴野氏の墓より発見されたと伝えられている。前山に所在する貞祥寺の西方500 mの蓼科山麓中には「伴野貞祥」の墓があり、伴野氏の墓とは「伴野貞祥」の墓を指す可能性が高い。

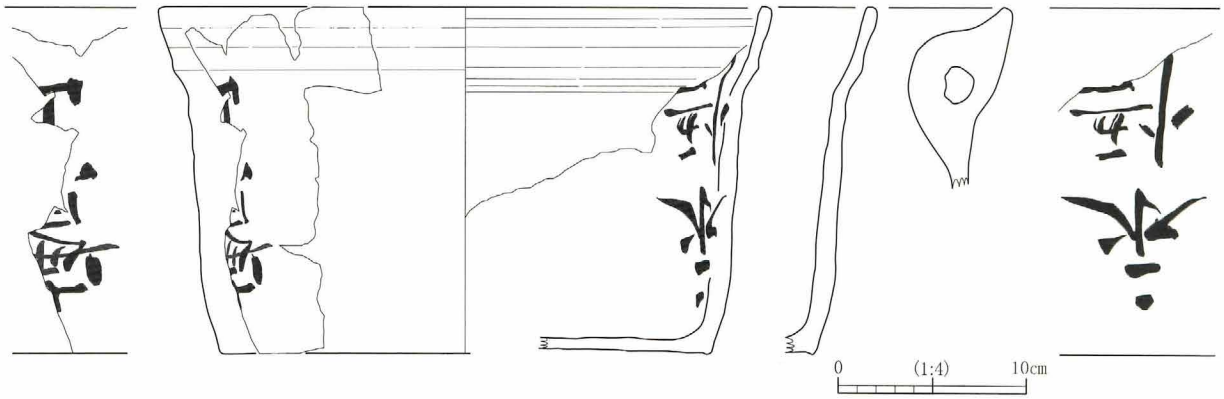
伴野貞祥は15世紀末から16世紀前半に活躍した佐久武士の一人で前山城主として知られている。貞祥寺は大永元年(1521)にこの貞祥により開創されている。

土鍋は欠損しているもののほぼ全容が把握でき推定口径32.6㎝・底部径26.2㎝・器高18.4㎝を測る。内耳部分は接合面が確認されなかったが同一個体と判断して実測した。本資料の特徴は外面2か所に墨書がされていることである。墨書はそれぞれ「永悟」と「實山」？と判読できる。ただ、この墨書が出土時から土鍋に書かれていたものか、保管の過程で注記されたものか確証を得ない。しかし、土器の表面観察では墨書にも土が一部被っているように見え、当初よりの墨書と考えられる。

本資料は形態の特徴から15世紀後半から16世紀前半に比定されると考えられるが、管見によれば土鍋にこのように墨書された例は佐久地域で初例と考える。



土鍋出土推定位置図（1：50,000）



2. 協和　山の神古墳群 第1号墳の出土埴輪

冨沢一明

山の神古墳群は佐久市協和に所在し、八丁地川中流域の河岸段丘上に立地する。現在、墳丘や石室が残る古墳は3基である。この内、3号墳と4号墳は平成元年に道路拡幅工事に伴い発掘調査が行われ、いずれも横穴式石室を主体部とする古墳と確認されている。特に3号墳の石室は残存状態が良好で、報文によると半地下式の構造を持つ玄室長さ5mの無袖型横穴式石室で、追葬が確認できるとある。出土遺物も豊富で装身具の勾玉・耳環、武器・武具の直刀や鍔・鉄鏃、馬具として轡や雲珠・辻金具等がある。中でも特筆すべきは1点だけだが冑の一部が出土している。4号墳の出土遺物も同様の内容であり、両古墳が近似した築造時期であることが考えられる。報文では両古墳の築造時期に言及していないが、3号墳の鉄鏃は形態より6世紀代の範疇で捉えられている。

今回、資料報告を行う1号墳は昭和36年に畑地造成により遺物が出土し、出土遺物は旧協和小学校郷土資料室に長らく保管されていた。これらの資料を昭和45年、(故)土屋長久氏が実測・報告され、広く知られるところとなった(註1)。

報告遺物は129点に及び、直刀19、小刀子2、刀装具10、馬具4、鉄鏃53、勾玉7、管玉1、切子玉2、丸玉9、金環13、銀環1、金鈴2、埴輪片6となっている。　また、墳丘についても当時の状況を地元の人々から聞き取り調査を行い、以下のようにまとめている。

(1) 墳丘は径3m、高さ1mのきわめて小古墳である。

(2) 石室の構築のみられない古墳である。

(3) 副葬された直刀、鉄鏃の一部に粘土が付着している。

(4) 主体部には、小礫が一面にしかれていた。

(5) 墳丘より、円筒埴輪、人物埴輪の破片が検出されている。

報文中では以上のようにまとめ、「本墳を粘土郭内蔵の古墳とするかはさておき、ともかく径3mの小規模な円墳であったことはたしかである。」と述べ、「副葬品の上から吹上山の神古墳は、佐久平では最も一般的な古墳であり(中略)信濃においては終末期に近い古墳であることが判明できた」と結んでいる。

山の神古墳群第1号墳位置図（1：50,000）

今回、報告する資料は、望月歴史民俗資料館の収蔵庫より新たに発見された埴輪片他である。これらの埴輪片の中に混じって土屋氏が報告した埴輪片も含まれ、新たに接合関係が確認できる資料も存在したことから、山の神古墳群1号墳の出土資料と判断し、新たに再実測を行い報告するものである。

報告資料は27点で、内23点が埴輪片である。1～6は人物埴輪の部位と考えられる。1は刀を佩用した人物埴輪の腰の部分と考えられる。刀の部分は土屋氏報告の第7図5にあたる。一部に赤彩が認められる。2は人物埴輪の刀部分で、土屋氏報告の第7図6にあたる。基部からの剥離痕があり、赤彩が行われている。3と4は人物埴輪の腕の部分でいずれも一部に赤彩が認められる。これらも土屋氏報告の第7図3.4にあたる。5と6は人物埴輪の顔の部分と考えられる。5は耳の部分か。8は家形埴輪の鰹木と考えられるが確証を得ない。7と9は形象埴輪の基部と考えられる。9は土屋氏報告の第7図1と2にあたると考えられるが、高さや透かし孔の位置が報告のものとは異なる。10～19は円筒埴輪片である。10.11は口縁部の破片で、いずれも口唇部は「コ」字状に面取りが行われている。また、11は外面がへら状工具による縦方向のナデが行われている。12～19は胴部の破片で、外面はいずれも縦方向の刷毛目のナデ、内面は輪積み痕が明瞭に確認できる。タガの形状はいずれも断面「コ」の字状を呈

するが、15 や 17 は、三角形に近い形状まで低くなっている。20 は特徴から形象埴輪の一部と考えられる。21 ～ 23 は円筒埴輪の基底部である。24 は須恵器甕の胴部破片、25 は土師器壺で外面に赤彩がある。26 は土製支脚と考えられるが、一部に黒色処理が施され高坏の脚部分の可能性もある。27 は打製石斧である。

今回の報告は、埴輪の出土が少ない佐久地方において希少な資料の追加である。山の神古墳の埴輪は、主体部や埴輪の存在で共通性が指摘できる北西の久保 17 号墳の埴輪とも内面成形では手法が異なり、今後は佐久地域の埴輪資料の比較も検討課題である。

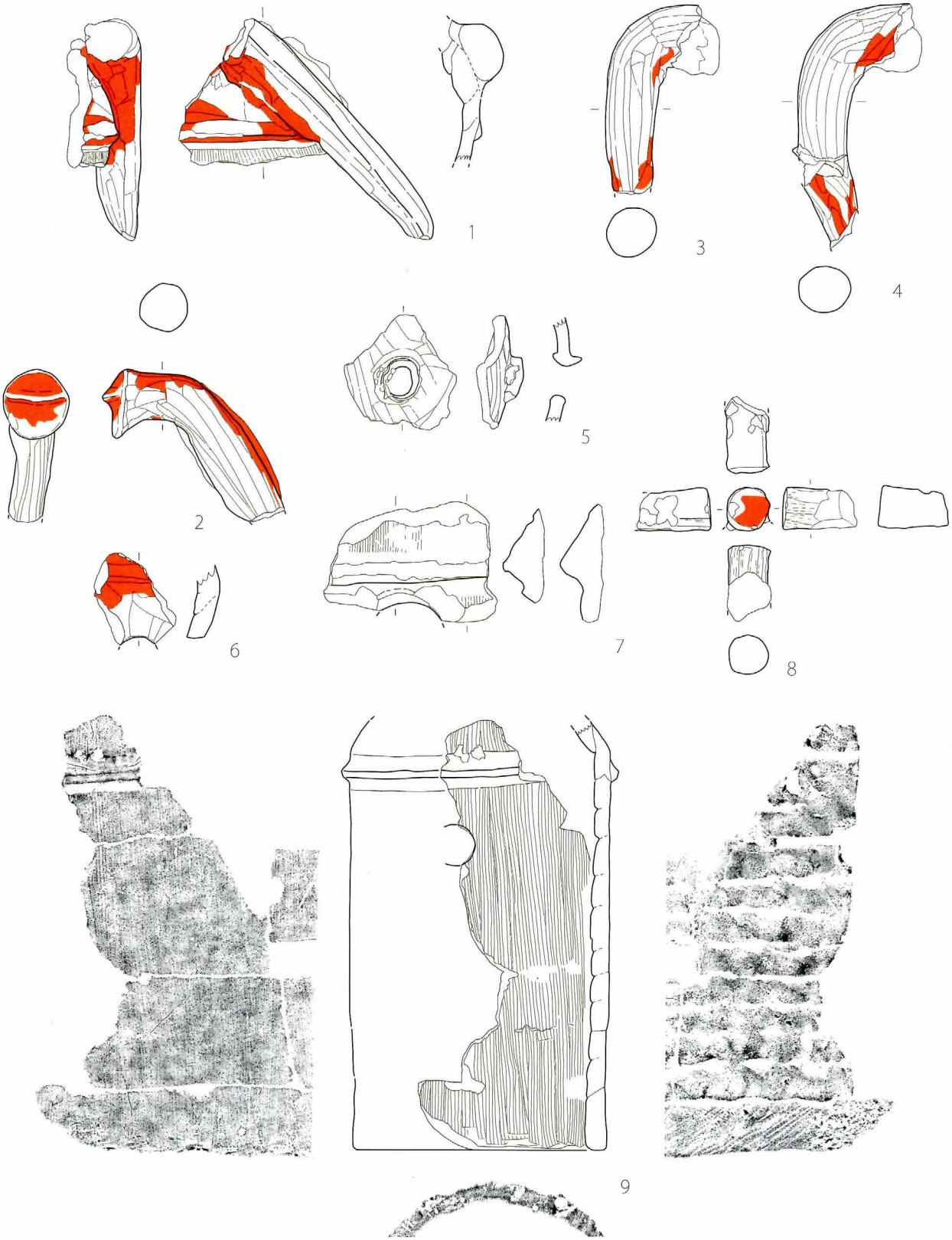
なお、1 号墳出土の遺物でこの他に刀装具の鍔 2 点から銀象嵌が発見されている。19 本の直刀を有する等を考え合わせると、本古墳は古墳群中でも中心的な古墳と考えられる。主体部の構造が把握できないのが残念であるが、佐久地域の古墳文化を考察するにあたり、非常に重要な古墳の一つであることは間違いない。

註 1　土屋長久 「北佐久郡望月町吹上山の神古墳について」『信濃』第 22 巻第 12 号　1970

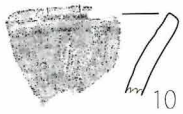
出土遺物観察表

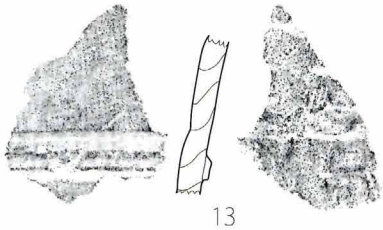
No	部位	法量	成形・整形の特徴	
			内	外
1	人物・刀・基台部	17.7	輪積痕→ナデ	刀部・ナデ→赤彩基台部→タテハケ→突帯貼付→赤彩
2	人物・刀	10.6		ナデ・ハケメ→赤彩
3	人物・腕	13.1		ナデ→赤彩　右腕
4	人物・腕	16.9		ナデ→赤彩　右腕
5	人物・耳	8.0	輪積痕→ナデ	ナデ→穿孔→耳貼付
6	人物・顔？	6.4	輪積痕→ナデ	ナデ→穿孔→耳貼付
7	形象	8.4		ハケメ→ヨコナデ・穿孔
8	形象・家？	3.0		ハケメ→赤彩
9	形象・基底部	30.0	輪積痕→ナデ・ハケメ	ハケメ→突帯貼付・透かし孔穿孔
10	円筒・口縁			口縁上部ヨコナデ→タテハケメ→ナデ
11	円筒・口縁		ヨコハケメ	口縁上部ヨコナデ→タテハケメ
12	円筒・胴部		輪積痕→指ナデ	タテハケメ・ヨコナデ
13	円筒・胴部		輪積痕→ナデ	タテハケメ→突帯貼付
14	円筒・胴部		ナデ	タテハケメ→突帯貼付
15	円筒・胴部		輪積痕→タテ指ナデ	タテハケメ→突帯貼付→赤彩
16	円筒・胴部		輪積痕→ナデ	タテハケメ→突帯貼付
17	円筒・胴部		輪積痕→指ナデ→ヨコハケメ	タテハケメ→突帯貼付
18	円筒・胴部		輪積痕→指ナデ	タテハケメ→突帯貼付・透孔穿孔
19	円筒・胴部		輪積痕→指ナデ	タテハケメ→突帯貼付・透孔穿孔
20	形象・基台部	6.2	輪積痕→指ナデ？	タテハケメ→突帯貼付？・赤彩
21	円筒・底部	7.6	輪積痕→ナデ	胴部・タテハケメ　底部・ナデ
22	円筒・底部	6.1	輪積痕→ナデ	胴部・タテハケメ　底部・ハケメ　ナデ
23	円筒・底部	7.7	輪積痕→ナデ	胴部・タテハケメ　底部・ハケメ　ナデ
24	須恵器・甕	5.1	あて具痕→ナデ	タタキメ
25	土師器・壺	5.1	ミガキ	ミガキ→赤彩
26	土製支脚？	4.9	ナデ	ナデ　黒色処理？
27	打製石斧		両側面に敲打痕	

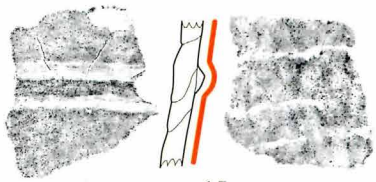
山の神古墳群　１号墳出土埴輪(1)

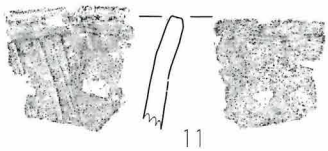


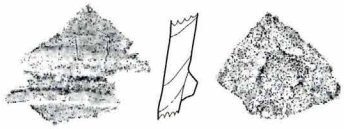
山の神古墳群　１号墳出土埴輪(2)

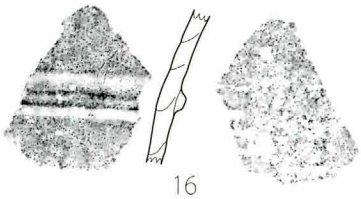

10

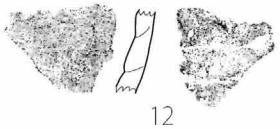

13

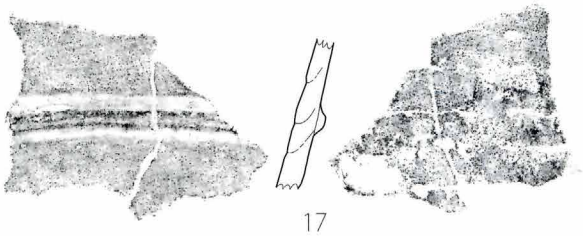

15

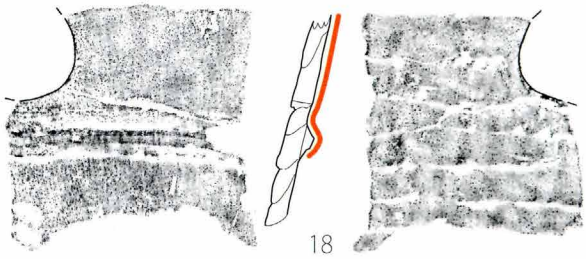

11

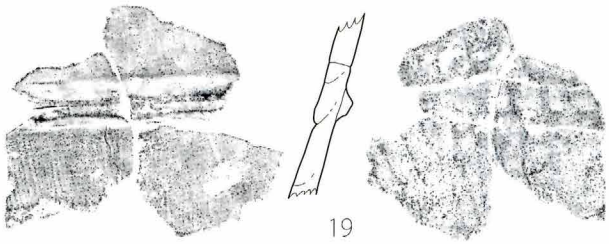

14

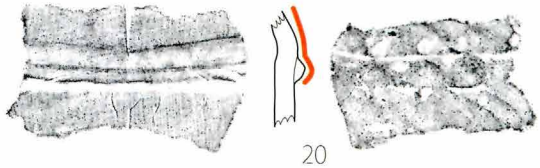

16

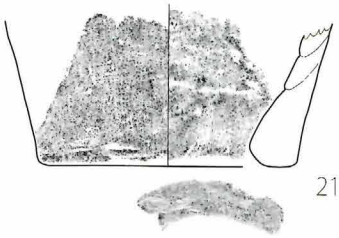

12

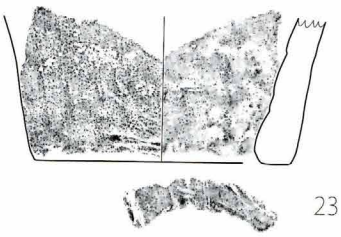

17


18

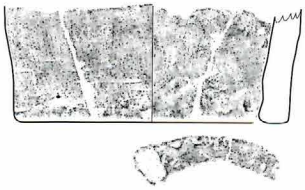

19

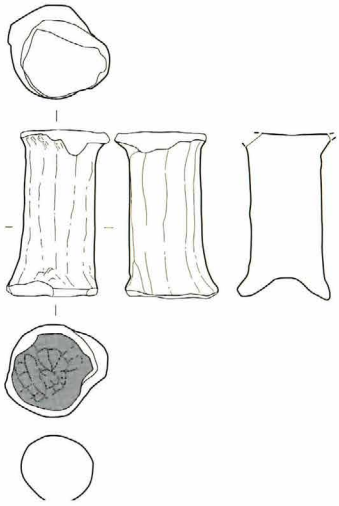

20

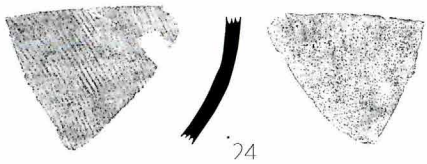

21

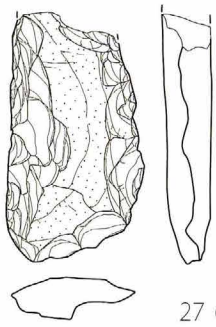

23

25


22

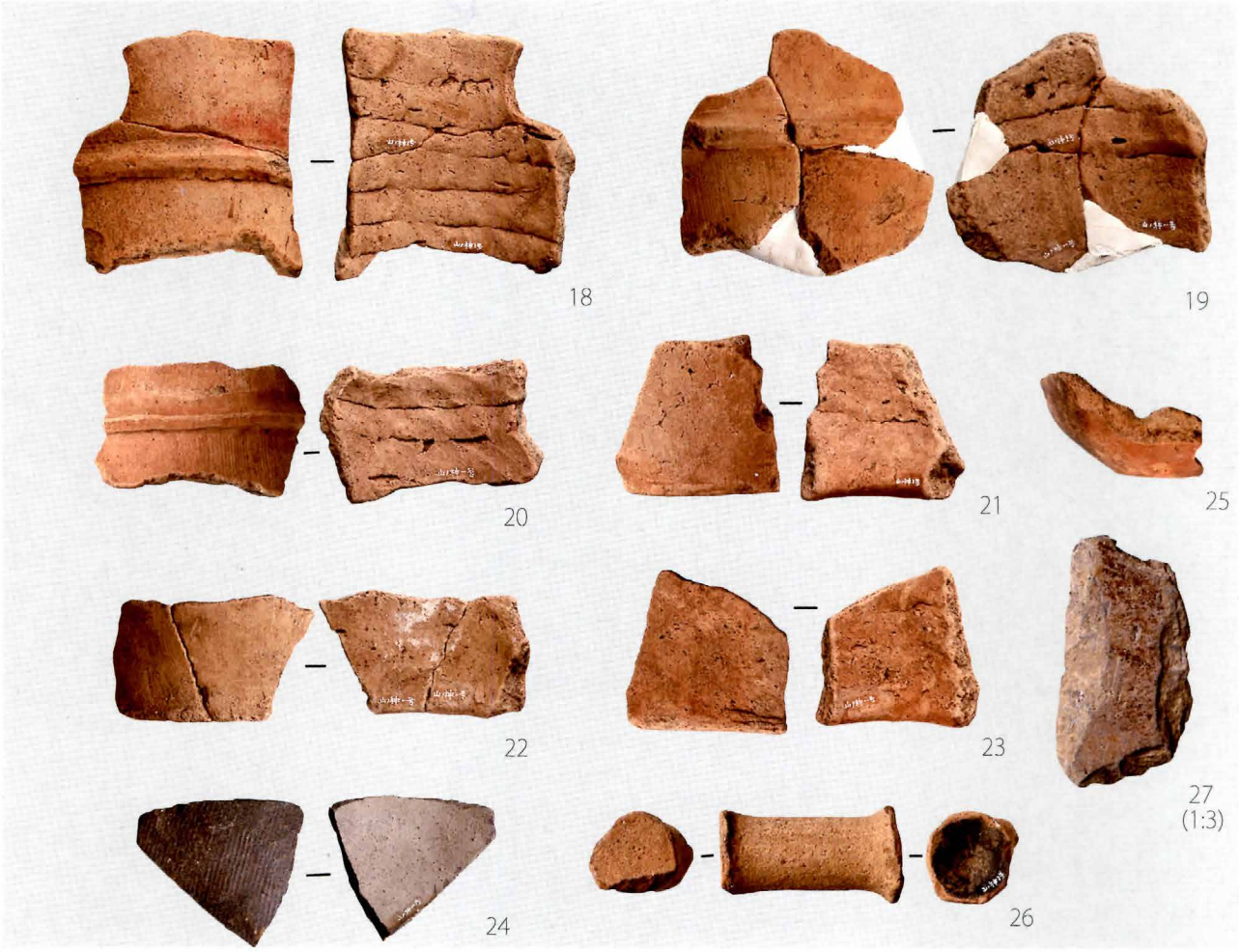

26


24


27 (1/3)

山の神古墳群　第1号墳埴輪・出土遺物(1)

山の神古墳群　第1号墳墳輪・出土遺物(2)



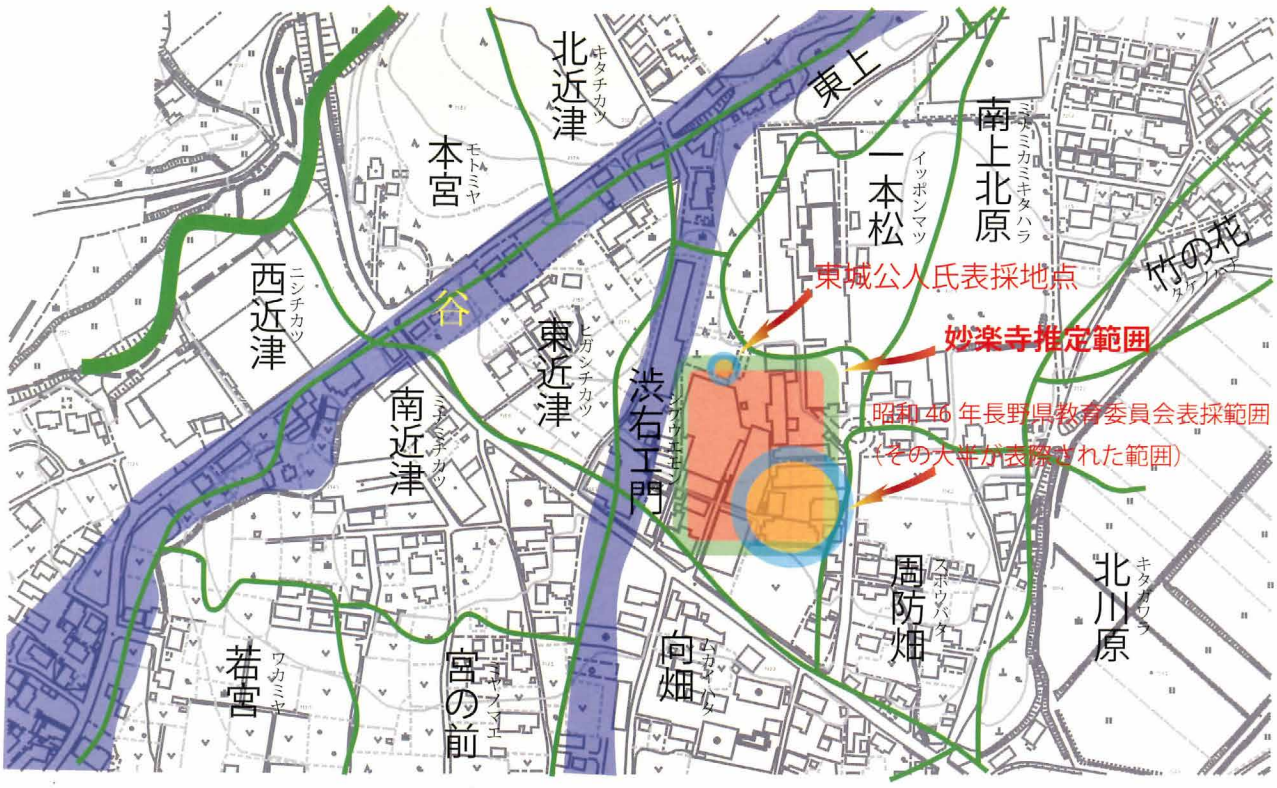
3. 東城公人氏寄贈の長土呂字渋右エ門1078表採遺物

小林眞寿

長土呂字渋右エ門地籍は周防畑遺跡群内にあり、以前から「布目瓦」が出土することが知られている。これらの「布目瓦」は古代寺院に由来するものと考えられてきた。すなわち、「三代実録」に記載される「貞観八年（866）二月二日、信濃国伊那郡寂光寺・筑摩郡錦織寺、更級郡安養寺、埴科郡屋代寺・佐久郡妙楽寺の五ヶ寺が定額寺になった。」の妙楽寺である。定額寺とは「もともと皇族・貴族・豪族・僧侶など本願の主が、私に建てた寺院・道場を国家が公認し、これに相当の保護を加えた寺院」（国史大事典）であり、「三代実録」に記載される妙楽寺についても、上記長土呂説の他に、現存する塚原の妙楽寺が中世に再興されたものであることから、隣接する落合地籍の台上や、南方の狐塚近くの「中御堂」地籍、内山地区の地字「明楽寺」説などもある。長土呂渋右エ門の古代寺院が定額寺の妙楽寺であるのか否かは別としても、佐久地方で現在確認されている、古代の瓦葺き建物は、他には望月天神反の茂田井廃寺が知られるだけである。

第1図に紹介する資料は、長土呂在住の東城公人氏が平成23年5・6月に渋右エ門1078の畑で採集したものであり、大半を占めるのは所謂「布目瓦」で、平瓦にはこの付近の既出資料と同様に特徴的な格子叩目が認められる。一方、丸瓦の表面は無文で、内面に布目が認められる。軒瓦と思われるものは17・22の2点であり、17は瓦当の外縁部分の破片と思われ、朧気ながら、鋸歯文のようなものが認められるが定かではない。22は瓦当に接合する丸瓦の先端部分と思われる、端面には接合強度を増すためにヘラによる刻み目が施される。軒平瓦と思われる破片は存在しない。

これらの26点に及ぶ瓦片は、長土呂渋右エ門1078の畑地の南西角の限られた場所で採集された。繰り返しになるが、付近は古代寺院の推定地である。



第４図　妙楽寺推定範囲

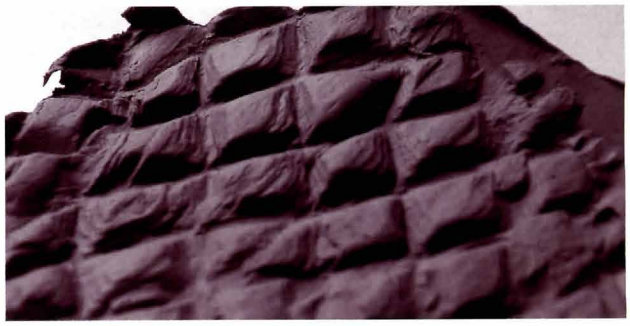
蛇足であるが、現千曲錦酒造の敷地内も推定妙楽寺の有力地のひとつであったが、敷地内の南西部分や東半を占めるグランド部分について開発行為に伴う発掘調査が行われた結果、寺院址は存在しないことが判明している。（今回資料化したもの以外に、東城氏採集資料には土師器片 -15 点、須恵器片８点、弥生土器片３点が存在するが、細片であるため、資料化しなかった。）

第２・３図に示したのは、昭和 46 年に長野県教育委員会が行った埋蔵文化財包蔵地分布調査の際に収集された資料である。同調査の報告書に９点、長野県史考古資料編に丸瓦１点と平瓦２点が掲載されているが、それ以外は未公開の資料と思われる。（今回資料化したもの以外に、88 点の破片が存在する。）昭和 46 年３月 16・17 日の日付と出土場所が赤字で注記されており、報告書の記載から、吉田工業と注記されているものは、吉田工業の敷地造成中に出土したものであることが分る。位置的には東城氏の採集場所のすぐ近くである。

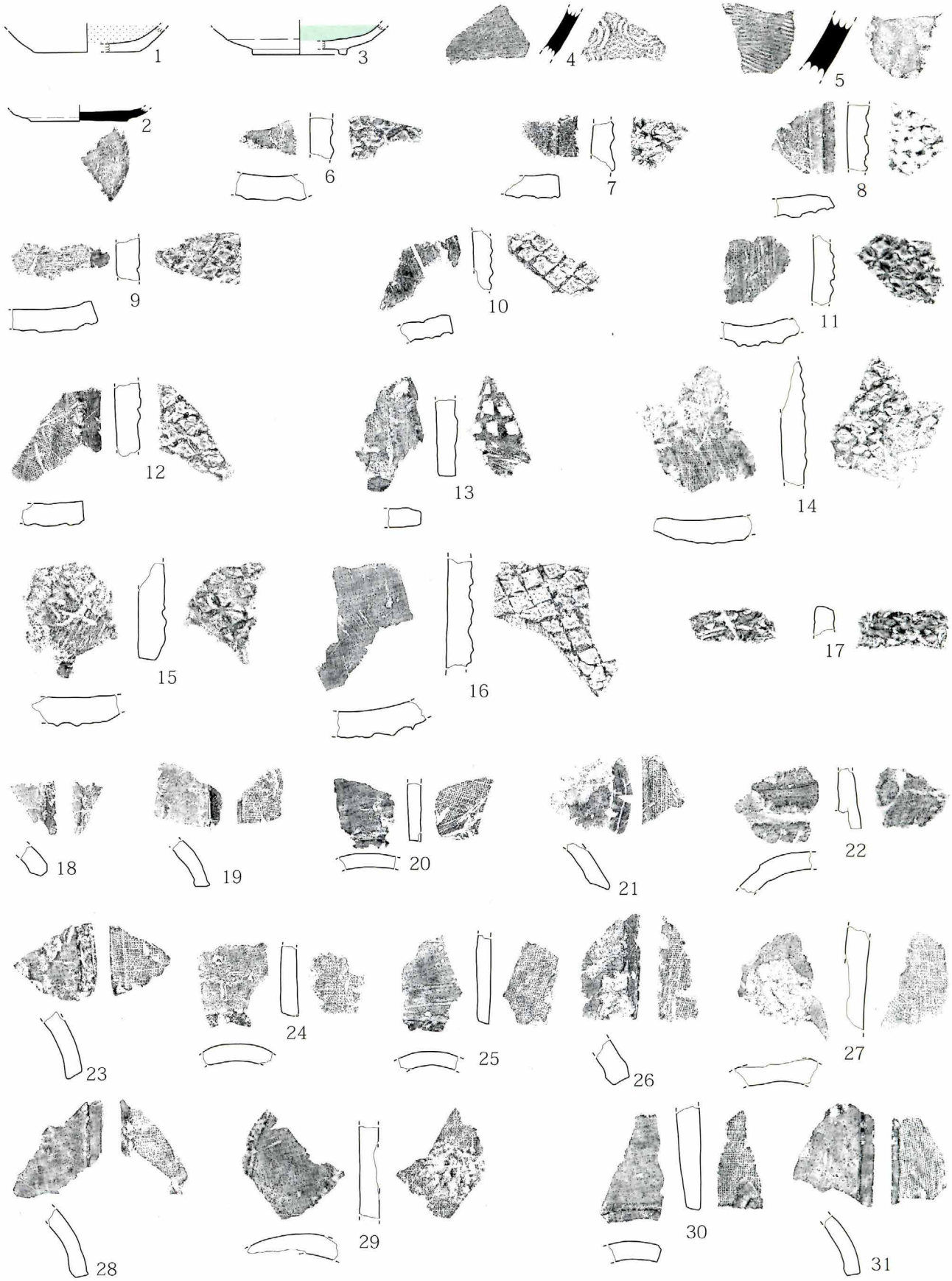
資料中に軒瓦は認められず、平瓦と丸瓦だけであり、有段や玉縁は認められない。東城氏の採集資料を含めた既出資料と異なる点は、平行叩目の平瓦片が２点含まれていることである（同一個体の可能性が高い）。青灰色の色調を呈し、凸面には透明で光沢のある自然釉が薄く付着している。想像を逞しくすれば、ここに存在した古代寺院は複数の建物で構成されており、建物毎に異なる瓦が使われていた？、あるいは平行叩目の瓦は軒瓦である？、更には修繕用の瓦である？等、様々な推測を想起させる。

大半の平瓦に特徴的な格子叩目について、下の写真に示したような模型を実物の瓦から型取りして作成した。当然のことながら、この格子目は叩き板に刻まれた格子が転写されたものであることが確認できた。格子を描く溝は断面「V」字を呈しており、鋭い刃物で相対に斜角の切り込みを入れ作り出されている。この溝を板に縦横等間隔に入れた叩き板により、格子目文は生み出されている。

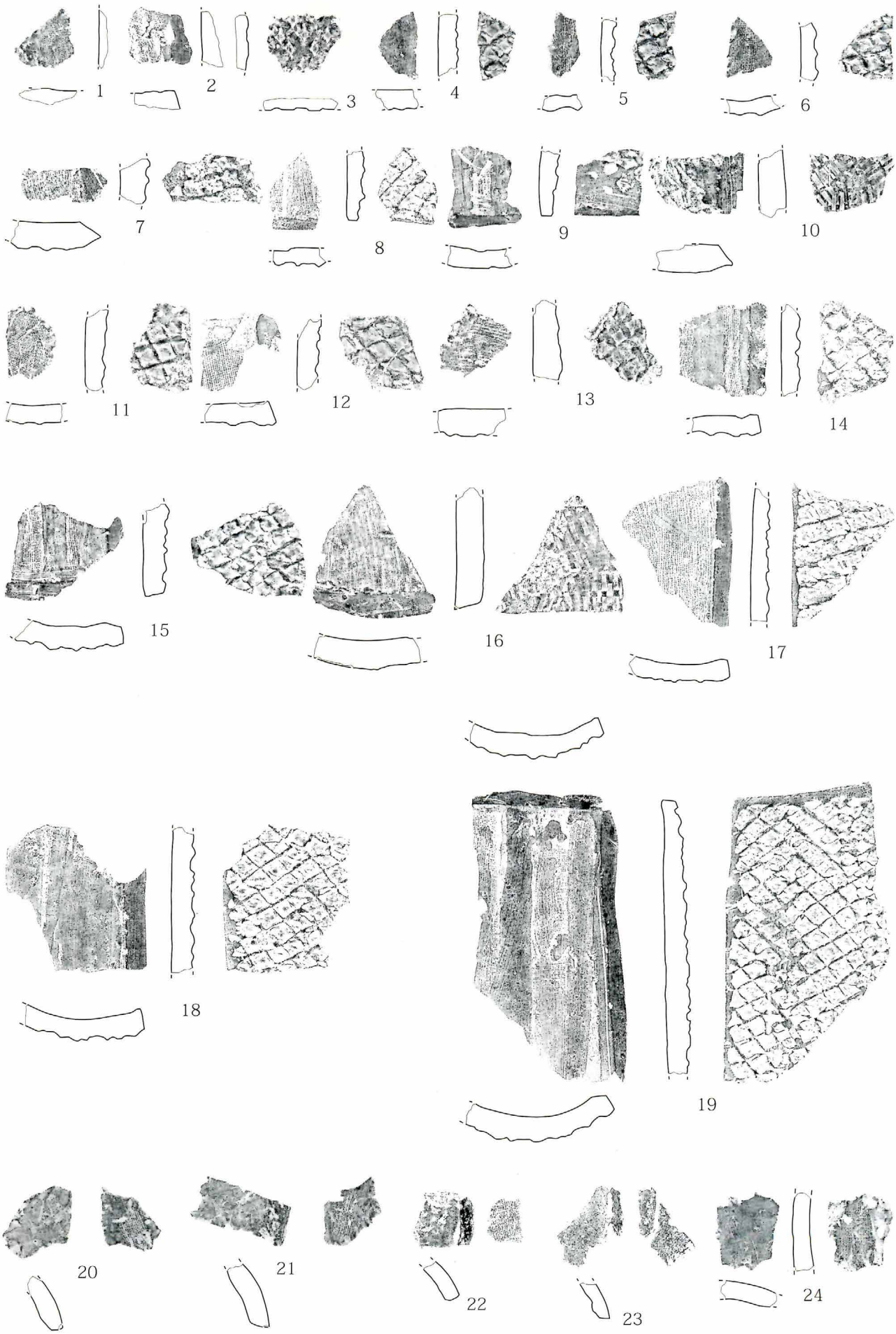
格子叩目の平瓦の形状、特にその厚みについては、既出資料の大半が少破片であったため、当初筆者は２種類の厚さのものが存在すると考えていたが、そ



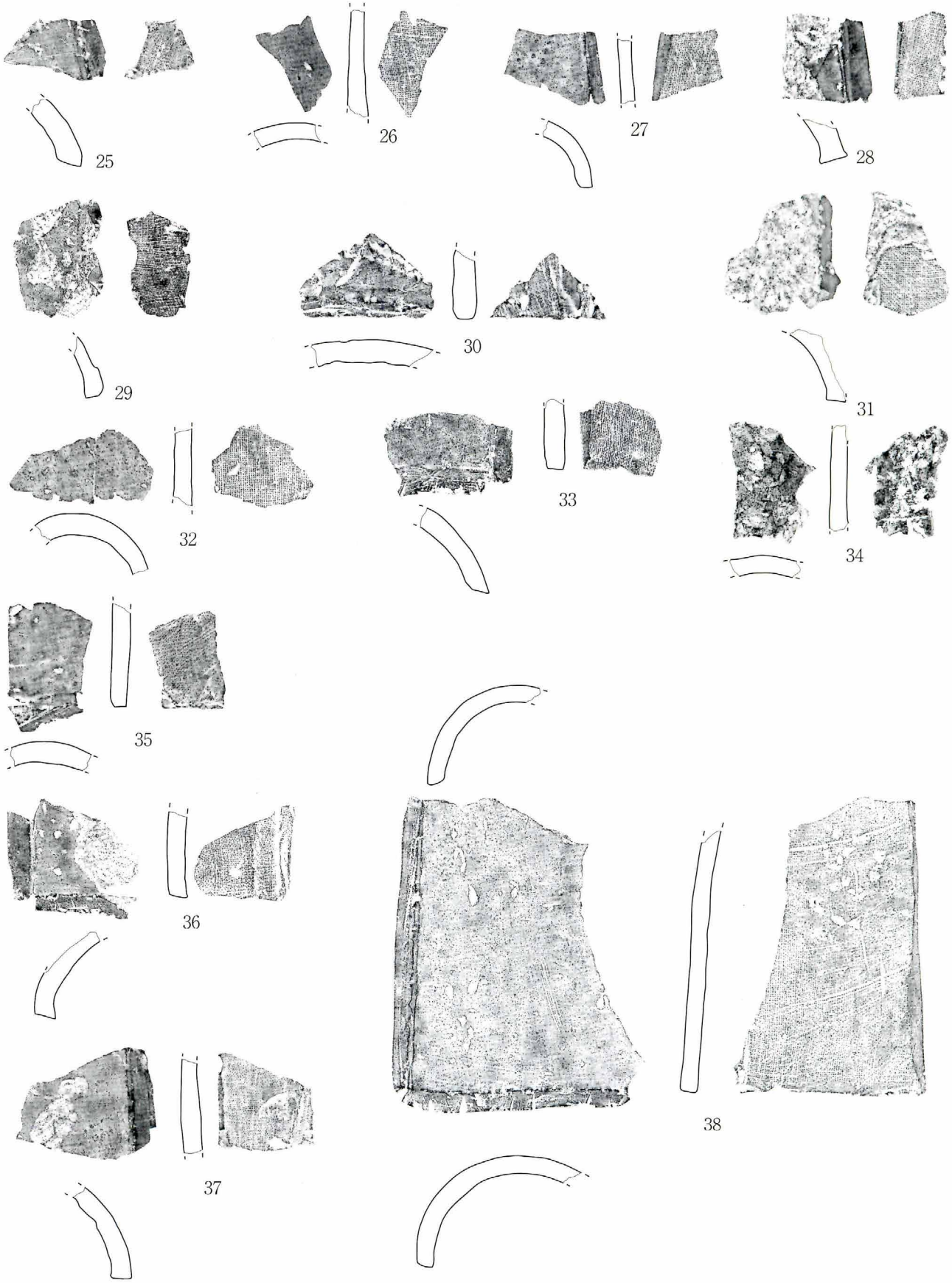
第１図　東城公人氏表採資料



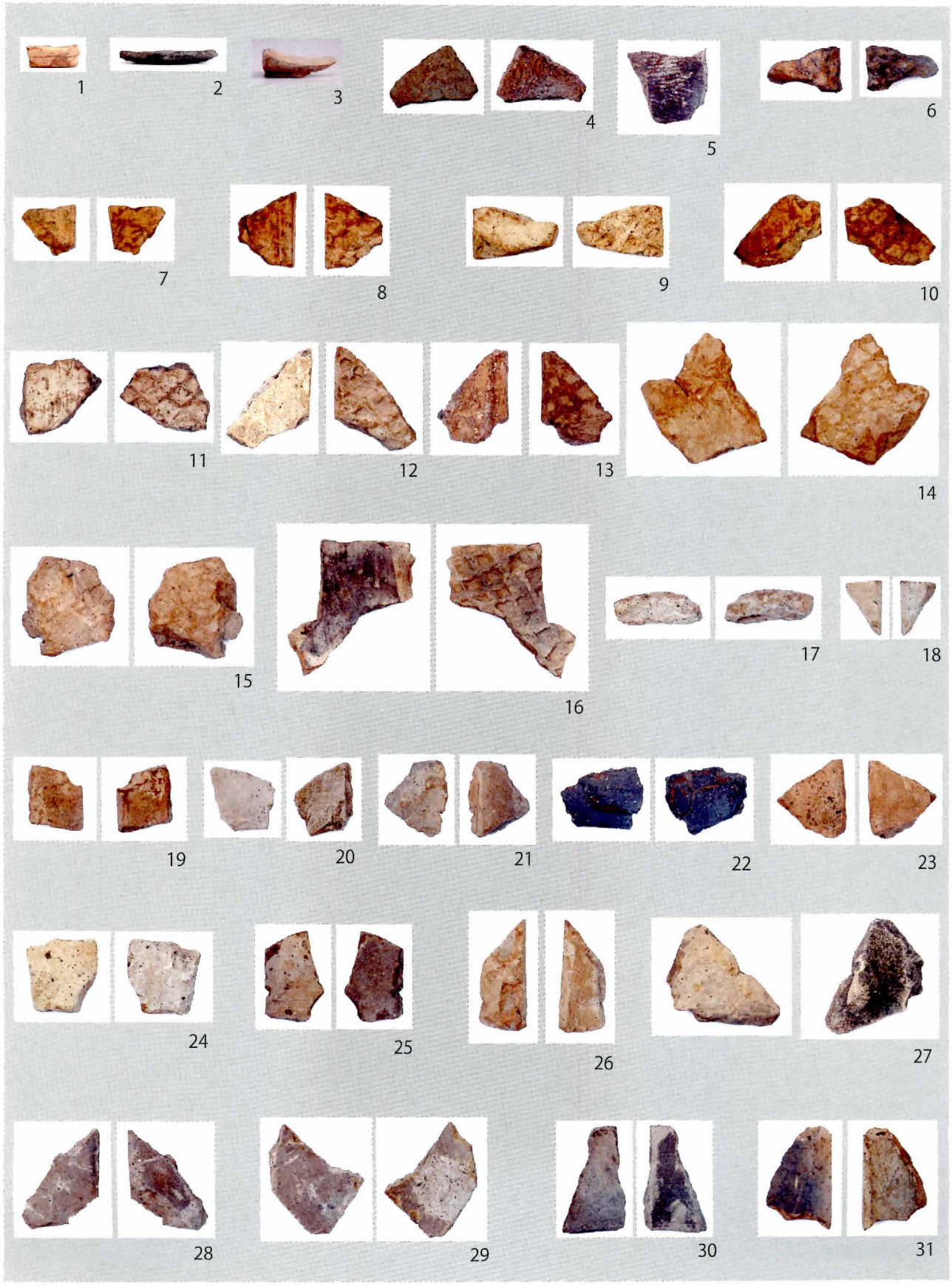
第2図　昭和46年長野県教育委員会表採資料（1）



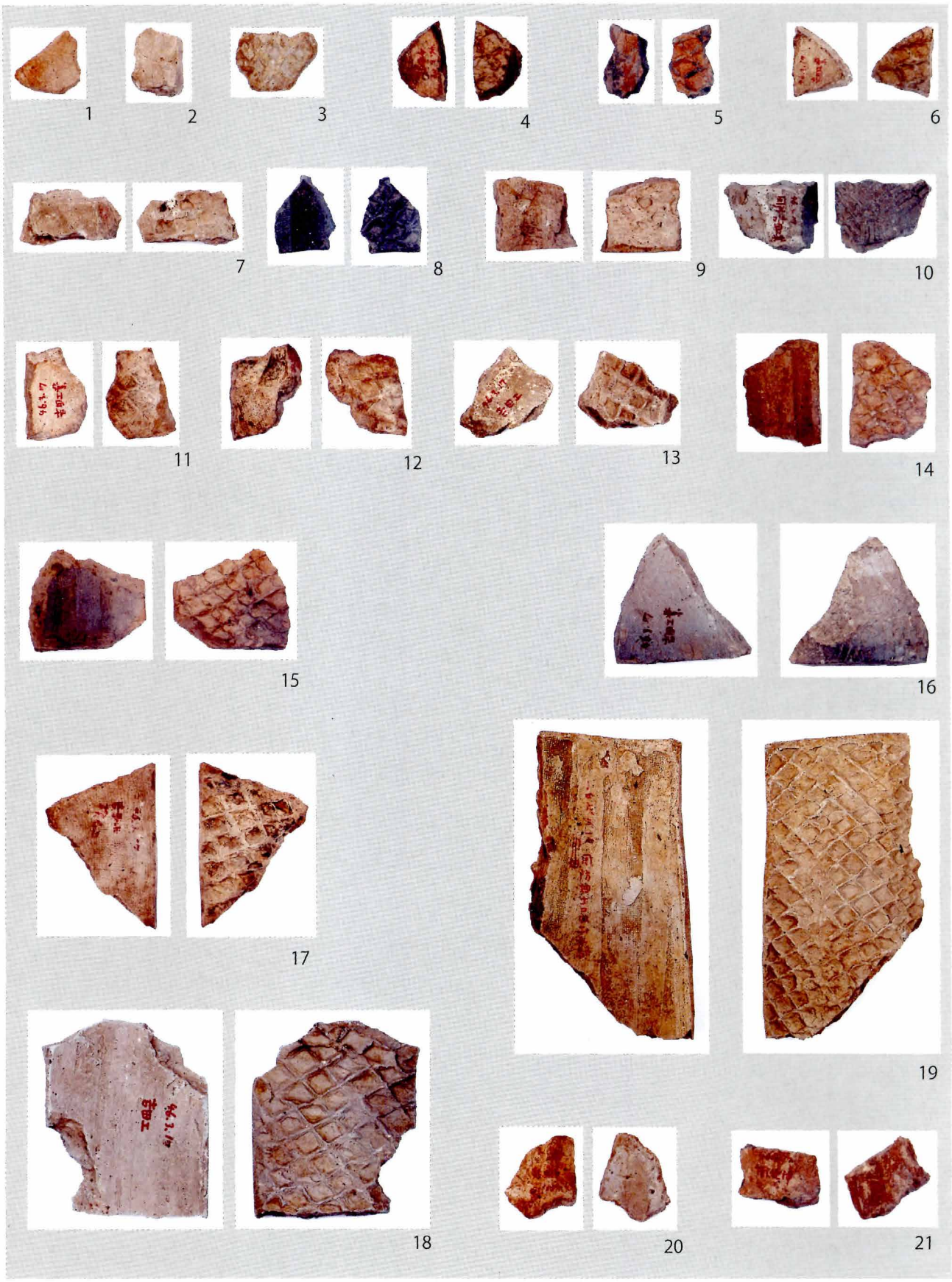
第 3 図　昭和 46 年長野県教育委員会表採資料（2）



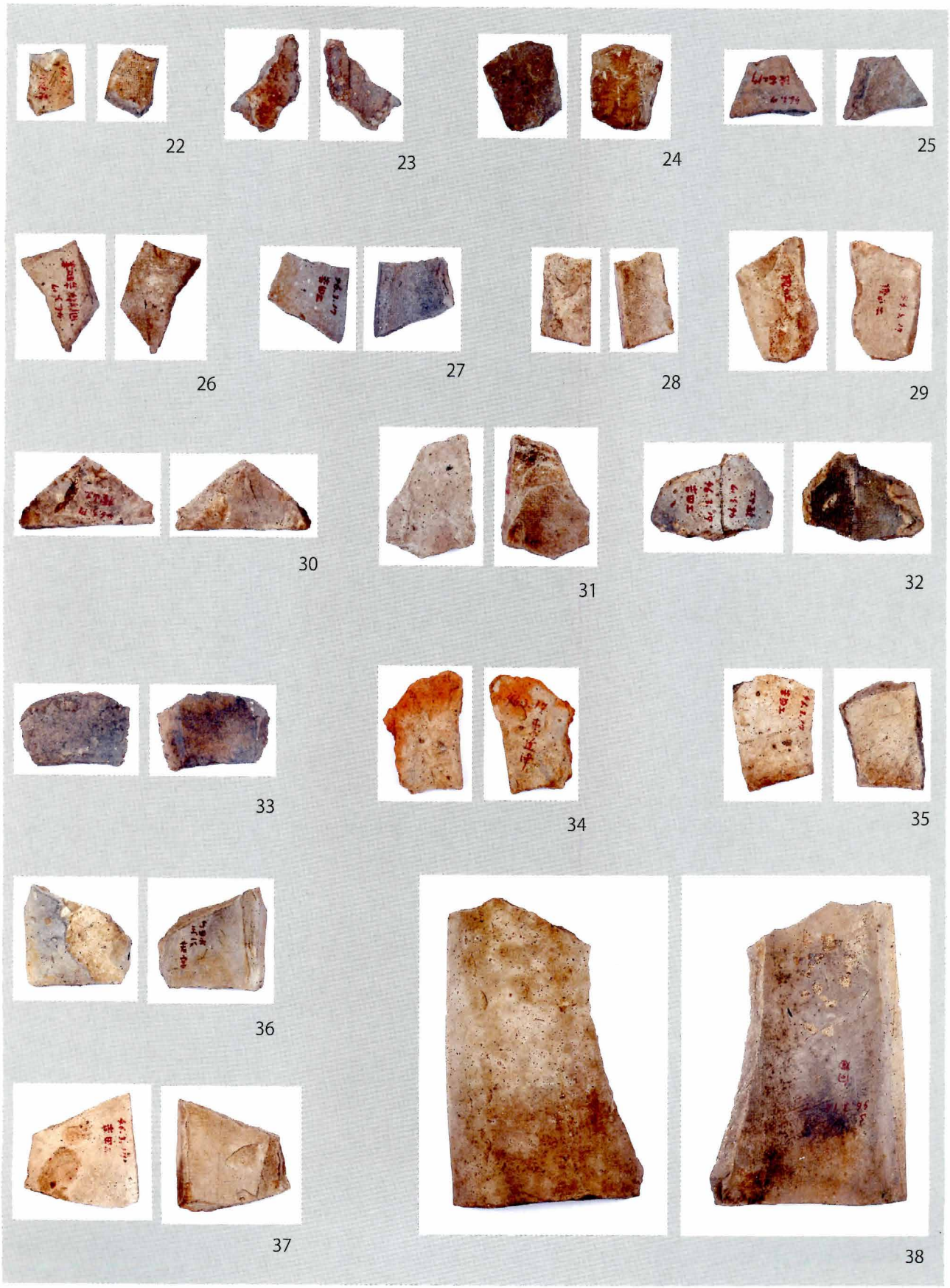
東城氏表採資料写真


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31

昭和 46 年長野県教育委員会表採資料写真（1）



昭和 46 年長野県教育委員会表採資料写真（2）



東城氏表際資料観察表

No	器種	器形	法量			整形・調整		備考
			口径	底径	器高	内面	外面	
1	土師器	坏	—	(6.8)	—	ヘラミガキ・黒色処理	ロクロナデ	回転実測
2	須恵器	坏	—	(7.0)	—	ロクロナデ	底部回転ヘラケズリ	回転実測
3	灰釉陶器	碗	—	(6.8)	—	ロクロナデ	ヘラケズリ	回転実測
4	須恵器	甕	—	—	—	当具痕	カキ目	破片実測
5	須恵器	甕	—	—	—	ナデ	平行叩目	破片実測
6	瓦	平瓦	—			格子叩目	布目	完全実測
7	瓦	平瓦	—			格子叩目	布目	完全実測
8	瓦	平瓦	—			格子叩目	布目	完全実測
9	瓦	平瓦	—			格子叩目	布目	完全実測
10	瓦	平瓦	—			格子叩目	布目	完全実測
11	瓦	平瓦	—			格子叩目	布目	完全実測
12	瓦	平瓦	—			格子叩目	布目	完全実測
13	瓦	平瓦	—			格子叩目	布目	完全実測
14	瓦	平瓦	—			格子叩目	布目	完全実測
15	瓦	平瓦	—			格子叩目	布目	完全実測
16	瓦	平瓦	—			格子叩目	布目	完全実測
17	瓦	軒丸瓦	—				ナデ	完全実測
18	瓦	丸瓦	—			布目	ナデ	完全実測
19	瓦	丸瓦	—			布目	ナデ	完全実測
20	瓦	丸瓦	—			布目	ナデ	完全実測
21	瓦	丸瓦	—			布目	ナデ	完全実測
22	瓦	軒丸瓦	—			布目	瓦当との接合部分に刻目	完全実測
23	瓦	丸瓦	—			布目	ナデ	完全実測
24	瓦	丸瓦	—			布目	ナデ	完全実測
25	瓦	丸瓦	—			布目	ナデ	完全実測
26	瓦	丸瓦	—			布目	ナデ	完全実測
27	瓦	丸瓦	—			布目	ナデ	完全実測
28	瓦	丸瓦	—			布目	ナデ	完全実測
29	瓦	丸瓦	—			布目	ナデ	完全実測
30	瓦	丸瓦	—			布目	ナデ	完全実測
31	瓦	丸瓦	—			布目	ナデ	完全実測

昭和 46 年長野県教育委員会表採資料（1）

No	器種	器形	整形・調整		備考	出土場所
			内面	外面		
1	瓦	平瓦	器面剥落	布目	完全実測	渋右エ門
2	瓦	平瓦	器面剥落	布目	完全実測	渋右エ門
3	瓦	平瓦	格子叩目	器面剥落	完全実測	
4	瓦	平瓦	格子叩目	布目	完全実測	千曲錦
5	瓦	平瓦	格子叩目	布目	完全実測	
6	瓦	平瓦	格子叩目	布目	完全実測	吉田工業
7	瓦	平瓦	格子叩目	布目	完全実測	吉田工業
8	瓦	平瓦	格子叩目	布目	完全実測	吉田工業
9	瓦	平瓦	ヘラケズリ	布目	完全実測	吉田工業
10	瓦	平瓦	平行叩目	布目	完全実測	吉田工業
11	瓦	平瓦	格子叩目	布目	完全実測	吉田工業
12	瓦	平瓦	格子叩目	布目	完全実測	千曲錦
13	瓦	平瓦	格子叩目	布目	完全実測	吉田工業
14	瓦	平瓦	格子叩目	布目	完全実測・S46 県教委報告書掲載	東近津
15	瓦	平瓦	格子叩目	布目	完全実測・S46 県教委報告書掲載	
16	瓦	平瓦	平行叩目	布目	完全実測	吉田工業
17	瓦	平瓦	格子叩目	布目	完全実測	吉田工業
18	瓦	平瓦	格子叩目	布目	完全実測・S46 県教委報告書掲載	吉田工業
19	瓦	平瓦	格子叩目	布目	完全実測・S46 県教委報告書掲載・県史掲載	吉田工業
20	瓦	丸瓦	布目	ナデ	完全実測	南近津
21	瓦	丸瓦	布目	ナデ	完全実測	千曲錦
22	瓦	丸瓦	布目	ナデ	完全実測	南近津
23	瓦	丸瓦	布目	ナデ	完全実測	渋右エ門
24	瓦	丸瓦	布目	ナデ	完全実測	吉田工業
25	瓦	丸瓦	布目	ナデ	完全実測	渋右エ門
26	瓦	丸瓦	布目	ナデ	完全実測・S46 県教委報告書掲載・県史掲載	吉田工業

昭和 46 年長野県教育委員会表採資料（2）

No	器　種	器　形	整　形・調　整		備　　考	出土場所
			内　　面	外　　面		
27	瓦	丸瓦	布目	ナデ	完全実測	吉田工業
28	瓦	丸瓦	布目	ナデ	完全実測	渋右エ門
29	瓦	丸瓦	布目	ナデ	完全実測	樫山工業
30	瓦	丸瓦	布目	ナデ	完全実測	樫山工業
31	瓦	丸瓦	布目	器面剥落	完全実測	吉田工業
32	瓦	丸瓦	布目	ナデ	完全実測	吉田工業
33	瓦	丸瓦	布目	ナデ	完全実測	
34	瓦	丸瓦	布目	ナデ	完全実測	東近津
35	瓦	丸瓦	布目	ナデ	完全実測	吉田工業
36	瓦	丸瓦	布目	ナデ	完全実測・S46 県教委報告書掲載	若宮
37	瓦	丸瓦	布目	ナデ	完全実測・S46 県教委報告書掲載	吉田工業
38	瓦	丸瓦	布目	ナデ	完全実測・S46 県教委報告書掲載	向畑

うではなく、この瓦は、周囲から中心に向かい厚みを増す形態であり、周縁部と中心では 2 倍以上の差があるものも存在することが今回の資料から分った。このような形態の特徴から憶測すれば、軒平瓦が全く出土しないのは、平瓦を複数枚重ね軒平瓦の代用とする方法も現実味を帯びてくる。

瓦の年代については、かって宇賀神誠司氏により報告された「川原寺式」の軒丸瓦と同様のものが中部横断道建設に伴う県埋文センターの調査や、佐久市教育委員会の「大豆田遺跡Ⅳ」の調査で出土しており、この瓦を基準とすれば 7 世紀末以降となる。

筆者は「聖原遺跡　第 5 分冊」の報文等において、この地を妙楽寺と捉えることに消極的な立場をとってきた。しかし、3 年間隣接する南近津遺跡や宮の前遺跡、若宮遺跡等の大規模調査に携わり、少なからぬ布目瓦を自ら発掘し、更に今回の既出資料を知るにおよび、現時点ではこの場所以外に「妙楽寺」は存在しないという考えに至った。この場所とは第 4 図に示した範囲である。

妙楽寺所在地をこのように考えた場合、近津神社とその杜が存在する広大な神社地や長土呂館跡を「佐久郡衙」の候補地のひとつとして考えていく必要もあるのではないだろうか？

* 東城公人氏採集資料は平成 24 年度に、本人から佐久市教育委員会に寄贈されたものであり、今回の資料報告は資料の周知と台帳作成を兼ねて行ったものである。また、長野県教育委員会が昭和 46 年に行った分布調査資料は、これまでその一部分が公表されてはいるが、全容は未公表であった。極めて貴重な資料であるため、今回東城氏の資料とあわせて資料化を行ったものである。

佐久市文化財

年　　報　22

2014年3月31日

編集・発行　佐久市教育委員会
〒385-8501　長野県佐久市中込3056
社会教育部　文化財課
〒385-0006　長野県佐久市志賀5953
TEL　0267-68-7321
印　刷　所　有限会社ヴィアン

長野県佐久市教育委員会